



江戸志

自卷之九  
至卷拾壹

ル 4  
1553  
6





冊 4  
1553  
6止



新編江戸志卷之九目錄



一牛込

築戸赤城 榎町 早稲田 中里

山伏町 甘藷店 船河原 寺町 原町

若松町 馬場下

一高田

戸塚 葛田 山吹里 宿坂 落合

草山 諏訪 椿山 鳴子嶋



新編江戸志卷之九



牛込



南有茶話云云て当国は往古曠野の地なり、駒込馬込牛込河を牧の  
有るは和字に多く見ゆ心なり

新見隨筆云昔牛込へ船入世し万治比松平陸奥守殿釣糸  
を得し大川より柳原坂通一お糸は水下通吉福寺橋通り坂  
ぬき水戸殿前を坂通一牛込所つぎは区切ぬき牛込へ船を入る  
ちの坂上の土を以て小日向等地小石川等地出来武士中一も成也  
此藝地出来ぬお赤城の神より目白不動より住家一軒あり  
田畑より成りぬ是より武士中一も町元出来ぬ一町元の坂三年

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.











築立一前之平地と云れ是なり  
御殿の跡を狭くすなり  
お見ぬ

○赤城神社

別当 赤城山等覺寺 上野木

神社略記曰延喜式に赤城神社トカリ有テ神名ヲ載ス然レ上

川ニ夜澤 上野國赤城山 神北共ニ夜沢神ト神也 三神主志良原宮内左衛門下卜部家説

赤城神者磐筒男命 磐筒女命之ニ神也格、日本書記曰伊弉諾

尊斬刺遇突智為三段之時血激越為神跡曰磐裂

神次磐筒男命一曰磐筒男命及磐筒女命一天皇此ニ神者曰大

白辰星之神亦曰初諾尊斬温突血成赤霧ト云レ嘉敷謂此御神ヲ

赤城ト稱シ奉ル赤霧ト謂レ下略也當社ニ右同神ニ牛込氏開基也神

洞窟ニ自下田中、森有レリ後ニ此處ニ遷坐シ奉ル中古上野國大

胡城主大胡常陸ト謂人赤城神ヲ海ヲ信シ三夜沃ヘ道遠ヲ以テ赤

城の神ヲ大胡ハ勸請シ近戸大明神ト号シ信仰有シト也此大胡常陸未孫

牛込忠孝門ト云人先祖の信仰有シ神也トテ上州ニ御社ヲ移ス則當所

鎮守也ト云

求涼莊記曰牛込氏上野國の産前上野國一丈を築キ、揚上

野國一の官ヲ殺舞大明神ト号シ神徑津主命也ト一宮神名帳ニ出

又日光神社武健御方命也舊事記曰徑津主命ト建御名方

命御軍の子有レテ後説ト附言テ牛込氏上野國一宮勸請の役ヲ授

テ日光山神ト赤城山神ト二荒山中の湖ヲ争ふト云認テ後傳也











○轟橋

早稲田上復町の碑 俗に轟橋といふ

○日高橋

早稲田下町の甲より早稲田末田まで

○中島

馬場下の末田まで

中島を渡るに舟をたてし中島船由と云ふ浪人住む所此の  
名を甲州浪人といふ此は甲州浪人の末葉今も有り

○要助屋敷

馬場下の田

中島を渡るに舟をたてし中島船由と云ふ浪人住む所此の  
名を甲州浪人といふ此は甲州浪人の末葉今も有り

○山伏町

江戸城より先達何事法皇御代にあり正保の比早稲田

うら

格好一人の山伏をたてし早稲田に住む所の山伏町

池のむらに住む所の池の名をたてし

往古より山伏多く住居せし事保永年亥卯十二月八日夜の町

より火尾陽の町をたてし危しき火の町と云ふ地

所は神の山伏丁の池の下谷幡院の所に本多氏の手で下

やき上地をたてし町をたてし新山伏町の山伏といふ

町が架るに火の町の方を舟乗り船と云ふ町と云ふ

小早稲田の青の移りし町江戸城の記をたてし

○火の番町



求涼野紀は古く所傳渡生系村と云

○淨瑠璃坂

此坂一本は昔の坂の上へ上ると其所のありしと云ふ付あり  
又水野系ありと云ふ段下りありぬつくも之と云ふ野あり池  
ありて其所の名ありと云ふ

江戸ゆゑの古本之説をのりて其野集が父の敵討あり  
池ありてゆゑに敵討の事と云ふ所の地名を扱て  
すゝもあられなく其の由ありと云ふ

○達坂

江戸ゆゑの古本之説をのりて其野集が父の敵討あり  
池ありてゆゑに敵討の事と云ふ所の地名を扱て  
すゝもあられなく其の由ありと云ふ

時心時義は古く其人を花守と云ふ當國に下りて其所に言及

と云ふ美女を云ふて年月を待て居りてあやうく美佐山  
麓に居りて其の神ありと云ふ事ありて死れし後言及藤西の

昔はては坂の末を美佐山と云ふて其の達坂と云ふ  
ふ彼廿二坂のありと云ふ川に死れし言及美佐山にあり

○富士見揚

○若宮八幡池

若神 若山八幡同——又仁徳天皇を祭ると説く

和漢三才圖会の文治五年秋源頼朝が伐真州奉衛進段  
時到此下馬以宿教、退治後建立之、当社、文明比叵大

サネカツ



社 神領ありて有る玉座ありと云

○ウタ坂

○堰兼井 達坂上 久保氏宅より内又達坂の下

才地兼井の現法ありてをこまう 或池に不河越のうち堰の  
許の井の跡もいふ所ありまう浅草史の下に在り真と云  
言ひ供にまじり堰兼井ふたふ二所もけ下堰兼井り堰  
兼井もいりて之

名所方角抄に下堰兼井多磨河の里入りのも所所武花  
野地名考云川越より二里と云府中より五里と云堰兼井りふ  
所所堰兼井りふの所地字と云二級堰下き二級下

りて井の原を二十名と云

○宇板 俊成卿のゆきま前のゆきまのゆきま武花野のゆきま  
詠にゆきま武花野ゆきま地字と云ゆきま井と云りて  
行ありて堰兼井と云此行と云ゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま

ゆきまゆきま

○神樂坂 牛込御門向

市あり幡巻流神樂牛込市つ井上と云く備へて神樂を奏  
けりては名所也江戸にも又行りて穴の幡巻流也  
板巻神樂を奏れと云く名付しと云く則穴の幡巻流也



坂上より放生寺の持主津久戸津波傳といふの地へ遷すの時  
才坂といふ津波を妻とすといふ

○牛込城跡

牛込氏の家説に今の豊店の上へ石城牛込城といふ追ひつゝ  
津波城といふことありて此地の傍に古城地といふ所あり  
猶も天文比直牛込宮内少輔勝行居城あり牛込氏の家系  
香御末足利より成り子大胡太郎定俊の後胤也宗を承り  
勝行の塚あり

○地藏坂

豊店より下り坂あり其觀音のつゝありて此坂を  
求涼院池に近世古耕者流の故か俗に慶安たす池に地藏坂

と捕不傳杖計といふことあり

○行人坂

一名幽霊坂  
往古大坂の巴、唯念ふ不傳小菴といふゆゑ此坂といふ  
を俗に語るといふことあり坂といふ里人の故なり

○船河原

江戸ゆき云昔市あり大池あり其掃水の流を直坂の下片所を  
云ふことありて今按ぎて今立寄村に直坂を昔、舟河原といふ直坂  
の下所を舟河原所といふ往古、直坂の下より輕の坂下といふ大  
き河原ありといふことありて此坂舟河原といふことあり

○輕子坂

舟河原へ下り坂



中止所に入り船の荷をまき上陸する所なり  
自下坂の名なき所なり也

山名 寺名 備考  
○大入坂 一宮寺  
○大入坂 一宮寺

寺社 寺中之神社

○蒼竜山松源寺

禪宗妙心寺末江戸之寺

○山靈鑑普照禪師

名宗五字達山長刀寺

当寺より一番所あり世俗猿寺といふ

観音堂

聖観音

弘法大師作

○龍峯山保善寺

同甲州東林寺末

同所

○山盤翁龍和尚

寺中

盛高院

○醫光山安養寺

天台宗上野末

同所

○山権大僧都錯海法印



草刈薬師

○高耀山三光院平林寺 左 上野末 同所

○高耀山三光院平林寺

○高栄山養善院平川寺 左 三 三 同所

○高栄山養善院平川寺

開魔堂 運慶作

当寺昔平川口より故寺より

○牛頭山千手院行元寺 香 上野末 寺元 同所 十石

観音寺 治藤城観音

略縁記曰 抑千手の尊像を惠心僧都の作也 往古右大将頼朝

公石持公官戦、後忠存上総、武蔵、高尾、舟子、あまの、秋原

にて通取、公持より、その像を、津氏の赤蓮と号す

、其像を蒙り、冬、より、東八ヶ國の諸侍、頼朝、幕下、

来り、之を悉く満員、依て、依て、あり、千手の像、より、や、江

江戸、ゆゑ、い、当寺、開山、尊覺、大少、有り、往古、大寺、と、惣つ、

牛込、所、つ、内、の、神、歩、坂、を、左、右、南、天、並、本、行、あり、依、南

天、寺、と、い、ふ、者、持、の、神、は、当、寺、の、徳、字、なり、其、此、奉、納、の、大、般、若、經

今、行、大、永、共、祀、に、事、始、破、壞、す、と、云

梅、の、寺、持、の、説、經、江、戸、ゆゑ、い、お、違、り、是、を、以、て

考、ふ、と、牛、頭、の、神、川、牛、込、氏、の、勸、進、に、あり、て、い、ふ、よ、し、徳、を、



凡ゆる寺の牛込代の上段の一宮後辨大の神を以て古の神の  
社地と記述せしむる一

○藥龍山光田寺正藏院 香土野木 横寺町

開山観律師 太田通灌建之

草葎の草葎

往昔、平ツ梅林坂あり、後田あり移り元和比今の地に移り  
當寺本より、さき梅林の地、此草葎の男来りし田観二佛  
をあたて曰く是は是台視傳故大阿一乃三神の尊何佛あり  
沖後、さきいりて、さき九日被長孫手、一字を建れ、後  
太田通灌上礼朝真もさき草葎あり、牛玉の宮より、宇殿、

納と、是は、さき、牛玉の寺、當寺、さき、江戶、ゆき、いり

○宝寿山仙藏院 同 同所

開山賢昌法印

天神社 各神管家

雷魔 小野皇作

古川地蔵 是、古川、さき、川、さき、向、さき、水中、さき、取、いり

○妙徳山田福寺 日蓮宗中山末 三町

開山蓮行院日山上人 寛永十八年十二月廿八日化

○護國山長源寺 禪宗相宗徳翁寺末 同所

開山 在天舜大和尚



○桃嶽山龍門寺

同 吉祥寺末

同所

○正覺山宝泉寺

同 念

同所

○不退山正定院

淨土 増上寺末

同所

○栄松山法正寺

念

ワラ者、  
ウラ

○雲蓮社昌譽上人助見和尚

○金剛山大信寺

念

念所

○大蓮社起譽上人

○天谷山南藏院

真言智積院末

同所

○正胤法印

元和年中 誓之方十一世 龍範法印の時 諸を諸社不残 再興也

并天社

弘法大阿作

社傳云 当山第四世 日胤竹生鳥へ 奉詔一 天

夢をふり 此尊像を 塔に附 廟あり 所あり

△歡喜天社

弘法大阿作

社傳云 歡喜天 阿諾陀尊 觀自在尊

△金毘羅尊

御一傳云 此大無碍の作 金胎阿部の不二のよ

○分應山常敬寺

一向宗 東本願寺末

山伏町

寺傳云 并基 明頂法阿の生 厨三州 宇多天皇の皇子 敦實親王

六代の孫 敏濃子 俊輔の二男 狹五位下 左衛門 佐昌俊 出家して 俊明号



此類真僧正の弟子と成りし三州播磨郡吉良在家村則昌院より其後天福元年其親嘗上人に謁し弟子と成浄土五宗改めて法城山浄見寺と云了俊明より九代孫教明慶長十五年江戸下り(宇建三行)に死す其元和三年免許を蒙り今切寺所より即常敬寺を建起す其後御用する所より寺跡を移れ遂に明暦三年止山伏所之寺他を拝領し本より阿保院如来三州より甲斐の頂供奉せり奉教寺八代蓮如上人彫刻世傳像あり寺の縁記あり

○根来山 報恩寺

真言 御室末 根来丁

并山

○妙經山 常泉寺

日蓮宗 小湊末

原所中丁

并山 好善院 妙經 日順 大徳尼

○起雲山 大竜寺

禪宗 甲州 真岡寺末

三所

并山 寛文の比 猪飼羊を門 正景 并是也

○長久山 常立寺

日蓮宗 平賀末

同所

并山

○一心山 専念寺

浄土傳 通院末

同所

并山

○竜洞山 松雲寺

同 長竜寺末

原所 三所

并山

○寶國山 長久寺

禪宗 房州 延命寺末

同所



并山

○月海山法身寺

同 慧然寺末

同所

并山 別傳和尚

○高田山正覺院

禪宗 寺末

原町若松  
ヨコジ

并山

○正定山章國寺

日蓮宗 山湊末

同所三月

并山 中明院日觀上人

加藤肥後守清心堂寺并基也

○安寧山清久寺

禪宗 安寧寺末

同所ヨコジ

并山

○神照山長明寺

日蓮宗 玉沢末

并山

神明宮

○天樹山永昌寺

禪宗 尾崎延原寺末 根末町

并山 普照禪師北州明滿和尚

○東護山願正寺

一向宗 東本願寺末 若松丁

并山 安養坊了善

○蓮沼山惠光寺

日蓮宗 玉沢末

同裏町

并山

寺中 榮昌院 甲斐牛人 観理院

○福應山蓮光寺

同信州川中島本陣寺末 若松丁



○惠性院 日蓮上人

○大栗山 經王寺

○開山

○上行山 久成寺

○開山

○三神山 千手院

○開山 舜倚法印

往古牛込御門通より寛永十三年此處に移り

本寺より千手觀音より九

脇士多明持國二天共赤梅権昆之羯摩の作あり

原町 裏通

同京上行寺末

同所

真言惣持寺末

七軒寺所

親後國守臣より天正年中太谷房吉常日勝家より付り柴田一族

安山より白倉津城より蒲生氏郷より攻り武敷北の時より

より寺より狸跡より蒲生氏用地主事見を掃り既に

元和年中少浦生系敷讓り修田地より孫代食堀田より

新あり富長氏傳り持當寺より附火より後江より出り

○法光山 久成寺 日蓮宗 五世末 同所

○開山大仙院 日善上人

○常栄山 淨輪寺 池上末

○開山唯性院 日宗上人 寛文三年四月二十日化

○正栄山 佛性寺 中山末



并山

○照林山多聞院

真言 惣持寺末

同所

并山 賢賢法印 寛永十六年七月朔日化 三身昆沙明天

○東曜山宝龜寺

天台 上野末

三所

并山

○光明山大願寺皆衆院

淨土 知恩院末

榎町

并山 晚谷寺

○瑞祥山鳳林寺

禪宗 吉祥寺末

七軒寺町

并山 松栖要窟大和尚

○綠雲寺

并山

○永劫山建勝寺

淨土 知恩院末

早稲田

并山 聖蓮社大誓露氷知願和尚

元市谷尾陽公御所 移

○光明山大養寺

三

三

并山 心蓮院 秋谷上人

落馬地 院 小灵係 石仙

○長遠山正法寺

日蓮宗 妙法寺末

三

并山 日進上人

○護念山宗圓寺

淨土 安養寺末

七軒寺町

并山



○雲居山宗參寺

禪音祥寺末寺領土石 換叶天下

并山 着栄禪師

南而茶法、牛込家傳より引て曰大胡宮内少輔重行法名宗  
參其子牛込宮内少輔從五位下勝行也宗、原任其勝行  
曾て武州牛込元年并極田日尾右兵衛下総堀子孫を領  
牛込、其任、依し天正十四年四月六日武康へ遷し大胡改牛  
込とい且武州牛込、移し第一寺を建立し、原寺寺々号水秀  
田十五の地を寄附し天正十五年七月二十九日平一行年七十五法  
を清くす

碑銘

但一基合記

天正十二癸卯年九月十七日

雲居院殿前大胡大守兵衛公羽宗參大菴主

天正十五丁亥年七月廿五日

冬秀院殿牛込大守從五位外心清雲菴主

碑左、方

大胡宮内少輔藤原重行者上州大胡城鎮守  
府將軍武藏守秀郷朝臣從胤大胡重俊十代  
嫡孫也移武州牛込城七十八歳卒  
碑 右、方



從五位下宮内少輔藤原朝臣勝行者重行嫡男也任武州中込之城天文十一年造雲居山宗冬寺寄附美田十斛之所天文十四乙卯年改之大胡氏号牛込矣八十五歳卒

当寺之山麻素乃子の墓所素行子之山麻甚五左衛門高秋之直享二年九月廿百辛子一流の塚人墳墓を志す也か為七多分池也

○太子山 菟善寺 一向宗 東本願寺末 早稲田 宗清寺

○山田明院 教権

元三洲の河の千石の地一移

○十劫山 宗源寺 浄土 知恩院末 早稲田

○山 信譽助 和尙

○松慶山 宗清寺 真言 宗泉寺末 同所

○山 雲高 天和尙

○一樹山 宗柏寺 日蓮 宗 皇頂妙寺末 復町

○山 日惠上人

○正玄山 妙照寺 日妙 満寺末 同所 宗柏寺

○山 日城上人

○松栄山 大法寺 同 小湊末 同所 妙照寺

○山 利生院 日善上人 延宝七年十二月四日寂



○落涼山濟松寺

禪宗妙心寺末

寺院 七百石 同所

開基 素心尼

此地又祿年中大友氏居住其後大橋五慶卜居之  
婦也傳云素心尼牧野共部少輔政玄廿幼加賀の臣前田對馬  
守真知事之後蒲生臣野長門守幸和嫁之從列邸  
素心比丘尼と云春日島と同、脱也、後年武江早稲田村、禪一  
宇建立、中込濟松寺、早稲田

鳳凰池

御灵屋の前

御佛殿

昔別宮 芳心院

寺石百十六石

開基 軍心和尚 開基 芳心尼

靈龜泉

寛永の比御茶の水より名あり

柘植松

境内、河松、松植あり甚大あり

塔元 靈性院 徳隣院 真淨院 慈光院 定光院

○大音山正覺寺

淨土 知恩院末

馬場下町

開基 寂曇上人

寛永年中起

青葉地藏

春日作

○龜鶴山松閑寺

同灵岩寺末

之所

開基 水良本尊上人 松閑 和尚

當寺常念佛、永應元年辰五月十五日始之、今各以三年迄



百五十年余不

五智如来 水食禁不自作 五智大佛

高田寺有之 往古之少 之庵室ありし 庵の所 东西南北に人  
此上人亦金仏を作し 之を得し 常と吹草を以て 乃くの細工を  
之れゆへ 境ゆ 稲を勧進し 花月乃の吹草 各を  
今も古の跡あり 大なるあり 密柑と云ふなり 境ゆ 山川  
在る所より 中野郡の界あり 今本寺の方を 在る所より 滝  
武井 在る所なり  
庚申也 任下の方 松菴 是也 境ゆ 庚申也 今も  
高田寺 江都に 梅あり 梅 流源り あり 梅 是也

○西宝山西方寺

浄土 増上寺末

同所

高峯 自義 和尚

寛永十二年 己巳年 起也

三國傳末 観音

当寺 于 観音 弘法 大少 入 唐 の時 青竜寺 惠果 和尚 中天竺の  
来 修 ありし 授 け 歸 朝 の 後 高 野 大 塔 におき 久 置 也 寛 政 年 中  
高 野 山 の 井 戸 流 水 と 水 門 乃 大 師 旅 修 變 一 此 像 を 主 也  
流 水 乃 回 石 の 此 可 山 自 義 授 け 依 て 当 寺 の 灵 佛 ありし  
江戸 ありし 也

高田寺 有 之 寺 自 學 之 者 之 長 命 一 一



年壽百十四才と記し、身終つて歩む眼耳も壯年の人増え  
年より百才の比より人々を驚かす事の一才を云ふ事、是れ  
を覚へて供ふ石塔正面、自出塔より生國備前  
宝曆二年十二月三日死百十四歳とあり

○紫雲山末遠寺 浄土 善導寺末 同所

○開山 宗蓮社傳答之良縁和尚 万治三年四月寂

高田寺在、不才寺内より古く庚申遷り、往方此所、市買柳  
町川田久保七軒町へ分るて、近來、川田久保より

武州存原郡江戸牛込馬場下町

奉待庚申為現世當二世悉地

延宝四年辰九月十六日 川田久保

○淨國山清源寺 真言 筑前善導寺末 同所

○開山 長久山妙泉寺 日蓮宗 玉沢末 同所

○開山 蓮慶院日表上人

落念の焼場、此寺の持あり

○福壽山南昌寺 禪宗 宝禪寺末 同所

○開山 金谷山宝祥寺 同 山王山末

○開山 大休林南禪師 同 同所

○開山 大休林南禪師 同 同所

○開山 大休林南禪師 同 同所



往古市各々ありしと云尾陽公所なり法祥寺各々之所也

○長久山本松寺 日蓮宗 馬場下町

○真藏山日念上人 願滿祖師

○護國山長源寺 禪相州徳翁寺末 同所

○本妙山感通寺 日蓮宗 小湊末 同所

○最陽院日蓮上人

○摩利支天像 源頼義寺本尊あり

○昆沙門尊 紙衣あり

○南谷山浄泉寺 禪宗 徳寧寺末 浄泉寺右

可山 智孝光紹大和尚

世継観音

○臨川山宗傳寺 禪宗 浄松寺末 中里

可山竺隱梵和尚

王子神社

宗傳寺年譜略云正保丙戌年十月十一日浄松寺地軸相違五明

村和田戸山の中王子権現社其草創の知らず天和八年壬戌起立たら

民間の口授あり慶安元三月社の傍祀旁を結じ宗傳禪者有る

主と社是より同し宝曆五年子十二月六日中里村に移すと云く

○傳久寺 一向宗 東末 改代町



并基

○龍谷山田中寺

禪宗 牛止天徳院末 同所

寺傳云、天徳三年(1177)年(1177)月(1177)日、師放鷹の時、御腰をこけさせ、  
住持破了と云、寺号を天徳と改め、  
以末田中寺と号す、  
天徳三年(1177)年(1177)月(1177)日、師放鷹の時、御腰をこけさせ、  
住持破了と云、寺号を天徳と改め、

○稻荷山長寿院 天台 行元寺末 改代所

并山

牛止稲荷 観音中 行基作

○久宝山万昌院 禪 上州長年寺末 築上下

并心 勅特賜佛照田鑑禪師

○明王山西照院 真言 南光院末 同所寺町

并山

并天徳

万昌院 泉藏寺 無量寺 成就院 当明前町合々寺

明前と云

○見龍山天徳院 禪宗 普祥寺末 赤城

加賀藩中 天徳院殿位禪師元加賀屋と云、稱

○本光山清隆寺 日蓮宗 中山末 同所

并山 妙光院 日徳大徳



○惠徳山宝光院 台上野末 赤城  
可山

鶴岡八幡宮 宝光院内 鐘舎 雀ヶ谷を勧修寺と云ふ也  
○東光山成就院 泉藏寺 同 同 白銀町  
可山

○樹王山正覺院 光照寺 浄土増上寺末 葦原

可山 清谷上人 幸了 河内院 寺中 清光寺

子母地花 縁起云々寺奉産地花善隣の世に於ての作也 近江國

志賀郡三井寺 有り珠と云ふ姓の輩 是よりいふも 聖なる地なり  
又皇九十九代 帝崇徳 宇多院の右地 西花門院 皇子内大臣具  
守卿の女御の御懐胎の事なり 此の地を以て 講寺 邦治院 崇徳寺院と  
稱す 皇徳を蒙り 弘い遠く 安んず 講寺 邦治院 崇徳寺院と  
申す 帝勅感の事 弘く 西花院を以て 奉産地花の  
事と勅諭 直末の寺 供奉の地を以て 講寺 邦治院 崇徳寺院と  
武年中 世火の爲に 院宇焼亡 漸く 尊徳行を同郡 崇徳寺  
移す 其の地 既四百年 移す 時 元禄年中 遍歴の所  
一宗 崇徳寺の故あり 増上寺 前代 正徳 崇徳寺 和尙 附屬  
正徳年中 尊徳寺 奉産地の寺と 本縁起一巻を以て 當寺と



寺附一毎ふらうて承之寺鐘をありあり  
○長龍山光源寺  
禪宗 寺は保善寺末 其は道河  
甲山

高田

或説ふ可玉一越後兼高田領主の館あり一ゆへ高田の号は  
一やまのこを誤りあり南向を治し北全分限帳を引て高田  
葛谷横山土志比留方ハ戸塚の内より延言々天文年中  
一うらふ心号りの事一をぬらう即  
○穴八幡社 高田戸塚 別当 光松山放生寺  
神社略記云人皇百十代明正天皇御宇ノ寛永十三年將軍  
家輝子豫之長松平新五左門尉源直次在力之人等所託  
釣山を築き子勢古を為しけり八幡太郎家之清和源氏  
子前ノ守護神をいふよりイハ山勸請也一まことけり然り



此の旧より二幸の松有り山鳩三羽来りて此松に遊了人々奇異の思ひ  
こゝろ假小宮を造堂して則松を神木とて鳥居を建てて祝ひ  
奉りて此五六年を経て元禄年中桂昌院殿御再興のつて  
今の如く大殿のまゝ江戶名所談を引て江戸妙子云寛政十八年  
辛巳周防国山口八幡の人良昌僧都を利家の臣として復奉  
何果てし遊せし田園の脚に出当用奉り難言を御至園  
の主の宿も其山中野宝仙寺として法印秀雄の命下在りて  
まなびし社傳りし日秋早菴を結して地をなれは折崩  
たる處にサキ穴有り口狭く奥底深くして方九尺二寸五分  
三寸許りの仙像石上を坐して遊了良昌是を尊り尊としてよりて

此所を穴八幡と云其穴をいへる當山の標より清き水は出つ是五條  
水の名をわふやうにありて

江戸妙子云當山を阿弥陀寺といふはてし向きの謂ふなり

△光り松 神鳩の遊りしころの松あり近世林は世に元子

年六月比松根より折りしをみる

△放生池 八幡の池をいふ

社傳りし所阿弥陀寺盛院中の跡を古跡ゆり終

に年を經りて社傳りし跡山林院内荒廢傳

小社のこゝろは橋宮徳寺といふ寛政元良昌僧都

宮寺といふ傳知を利家の臣檀を何果といふは

國



坊間古の情の或人ありて毎正室世院門を政業大阿耨者梨の  
弟子より諸國を遍歴して當國に傳宣するに  
錫を以て居りて人々法を此處より傳へし  
時より山に林を以て忽ち一洞の穴ありて人々  
煙をもちて内を以て石上の金銅の阿耨陀末に  
けし是正八情の事地あり則神傳ありて  
ありぬるあり元年社あり復し傳宣の社あり  
而造るなり  
高田や有、放生寺の庭、泉水の中、こゝ移るなり作の處向  
木を以て形を以て之

世継竹 相生竹

神前の左にあり  
普賢堂 九品佛

この末社も  
△求室神社

縁起は祭の處大貴已命、元禄三年十二月廿二日收村代直  
良十二歳、疱瘡甚し重し、元禄三年二月廿日全瘡癒人渡也  
是善事也蒙斗、求室若以神を以て疱瘡平癒なり  
武州戸塚村八幡寺内此神を勧進元禄七年初に此所  
ナリ



寺家 松山院 光山院

○松竹山龍泉院 直言 蓮華寺末

畫候觀音 五十四代花園院御震寺 少午十五番

中興關山秀賢法印

聖天社 弁天社 道祖神社

○八幡坂 龍泉寺前坂をふ

○駒の橋 石橋より八幡の前

○水稻荷社 戸塚稻荷より別当天台 上野末 禪英公宝泉寺

名勝志云天文十九年甲申牛込玉璠時國といひ此寺院を修

賞する云い

江戸妙子云元龜元年上杉治部大輔友良其夢ありて勧請せし  
南尚本誌云宝泉寺。上杉治部大輔朝貞此寺を造立す。稲荷  
を勧請せらる。古新田家の陣所のより。今竹久今境内  
に蓮立梅曹娥の梅あり稲荷の前池のほとり。先年枯て今

△昆沙門を

此の寺に云田原藤方寺卿が親王時門を討て事なむ昆  
沙門の齋を奉り目を開きたる。秀卿の曹のよ長河の歌に  
あり。秀卿を自ら供けやをまじり本寺なる。  
△常念佛を



本字の事河川東 聖后太子御書御成道所と伝也と云

千年松 神木長州の事と云今枯る

舟撃松 河をたすやと云

源氏旗建梅

六本杉

斬蝎池

紫衣の事 寛永の御狩の時池の名を尋ねてせよと云るが  
中へ一に東の所の池と云ふなり 勅命ありと云ふ

江戸ゆき元禄十五年 四月夢想のついでに授けりし水涌

けりあり目を見ても不思議ありと云ふ事ありと云ふ

△戸塚頭

江戸ゆき古麻子を引て曰長河門の美夢と云て古木の森に  
る處を記し古麻子と云ふは狐の事なりと云ふて戸塚と云ふ所  
すきと云ぬ説あり 狐塚と云ふ所、里人のいふ宝泉寺の塚。  
あり

梅がし 江戸ゆきと云知人のいふ一又高田を産する戸塚の

しるは法泉寺にあり 狐の形したる石の古き屋敷あり故に云也

と云ふしるは戸塚と云ふなりと云たり

紫の一本云 当所と郭公の名所なりと云書す所不知と云

南向屋指と云 兵家屋指と云て云 後村上天皇七年 新田家信



濃宮と奉りし武田守左衛門尉

君が代のはりたれしとて其陣所より武田守左衛門尉の乾徳山法泉

寺の古跡と見え天正信濃記也と梅谷の法泉寺より田代

八幡の近隣ありし

信濃宮の法泉寺より三白の宗良池とのよりありし考ありし

英山宝泉寺ありし一乾徳山法泉寺の法泉の先キ中野より

高野の隔りし殊に由説に大地の古伝ありし大所のよりありし

△鎌倉海道より通る

○万年山法輪寺 日蓮宗眉士本門寺末 上村

甲山日賢上人

○高田天神社 上村 別当真言 天龍山真定院

読砂より不当社元中之天神所より神体一寸八分菅神御

自作あり寶永此 大樹御祈禱遊よりありし神係あり

大橋立系より一院不依り当社を建立ありし也此件

上の御帳に記しありし別当の記ありし

高田中野産より大橋立系より年哥仙菅公御年当社より

此寺の取より諏訪へ行通りしに巴さきて上村よりありし也

○金谷山宝禪寺 禪宗東昌寺末 下戸塚の八慶

可山 寺中南昌寺



○高田馬場

高田を産ふ豎東西六町余横三拾間余一町一丁の古大将  
頼朝公堀田川より所に出せ勢極むりしころ馬場二筋  
河の北の馬場武田信玄が田原北条攻の時馬を責らるゝと不  
其故し何某馬を責しん故馬して死す是より某馬を禁  
し方の射場より南馬場を以て無馬をり北の方松の五木  
ハ字保年中釣命より植させしころなり

寛永日記云寛永十三年三月五日高田の馬場をさぐりて  
釣命ありし中津津奉行林丹後守勝正加藤左内河村善左  
つむとせらるゝ馬場出来しころ渡御りし旗本諸士左方し

を鞭を打りし其後不飽旗本の額と此所を馬場習古所なり

○三島山

高田馬場後北の方

高田を産ふ云大字長屋敷なりし道つたむに行森河古松  
四五本なりし所を昔三島神社勧請火舎社なりし禪英山  
宝泉寺の持りし所なりし次川一目に之が景包の地なり

○籠田

三島山の下をいふ

此田の面へ水を拭きしころ水をもたむ故にあり

○新家村

高田馬場より東北に上村より其地をいふ

○荒藪山



馬場より南の方戸山の矢来前より誼行きの町をふり巴雲雀  
の名所として春を雀の舞ひ囀る事一神に佳き

○山吹の里

高田中産ふ高田馬場より北に石一ありを家といふるなり又  
上杉の世をいふ共云傳つていふ一説に昔は田邊流の裏をてし時  
山吹をたてしきりし所の名もた或言ふ一説流に花園を  
狩せし時やむかひ此所の古事なる金川といふ法泉寺の敷下を境  
多し小溝をふてきりし鳴子高田の間に流をたてて来りし目下村  
よきなりと云ふ

南向茶話云山吹里の旧地或人の説に只今高田馬場より南に村

一行く派に處に百姓家あり所と云ふ或説に古く蟹のりとも川ありと云ふ  
穴の橋前より早稲田お表通りを流す一川ありと云ふ只今古川といふ川  
筋ありと云ふ

本朝通史云一日道灌出野故鷹の五月雨俄降無甚差道灌  
某家請雨番時夫出他有婦持来欵冬花置道灌之前  
道灌不悟其意馳出至隣家得雨番暇家既問人曰婦以枝  
謝其請何乎其人曰謝以表差之心也乃以和哥解其意道灌大  
息曰噫大夫非此道為奴婢被愧乎遂禁田狛馬學文學和哥  
○面氣橋 上水のつたれ橋をいふ  
○染見橋 ねむりけけ村より先の川村をいふ



南田孝詒云明應年中此里に和田義貞は守祐と云士に男士  
二人守後祐親と云女子一人於戸姫と云容色すまきたる故に婿  
を求めし人多けし免され父守祐他國へまのり此近き也し  
実と云ふ者堂もよふ一彼の家を就か不俄のゆゑし兄弟を  
討つ陣に關真へつ於戸姫を奪ひ取逃去りしに板村と云  
逸入りて人心をけきまへ彼可打振て実と逃去りぬ此板村は杉山之  
郎をまつらしたるつゝま歸のあり耕作の為此野と云此女を伴  
えし家と云程経ては近江の川をまつた即ち多治と云士杉山之嫁を  
求るゝ再三をせ彼杉山之嫁と云然して村上三郎武範と  
云士彼川と云と交りけし妻女を奪ふと云たむり川と云へり

透るをえしわ川と云一殺しけし於戸姫長刀をもちて村山と云たむり  
村山逃んとすを村山足<sup>右</sup>多けし縦者あり合し村山を討と云  
妻女をみ、耐り川撃をわし家と云て川と云と

一のりしに染と云や行の移りて人の影を恨也  
と云す又一月の出と云

かゝるあまの月と云方と云けりまのい人

其後此川の身を授けしより右の跡より人容見附と云付るは  
安んずし、民の里談と云のは名等と云池書と云信州と云  
一のりし路と云其記を載しとのりし

昔事名詒と云實所廣野のす小和花の所鷹と云す



四ノ下鷹のたてつけやまふふり海尺のこころきや  
釣糸ありーとる里流し

○麦藁塚

海見のわりの付けのりさふ此辺を所利坊とふり

○海寿山 夾山寺

禪宗 吉祥寺末

山吹里先  
所利坊とふ

○開山 同安洞 容和尚

牛に五明村より遷移

夾山寺と誣詆江と天神社行 金兼院持ち

○如意山 亮朝院

日蓮宗 身延末

夾山寺の上

○開山 日暉上人

七面寺

不老の松

七五三の松

何ぞ哉 境内の名木

○大鏡山 南花院

真言護国寺末

所利坊とふ

○開山 円成比丘

高田 兼行

聖徳太子以立係三尺四寸

鏡江戸所子云 物徳帝 養和年中 奥州平泉にありて 秀衡持

佛ののりつけを 農家のり 山 円成比丘 圓圃の時 其夢の

事ありて 父の字と此の自の里に 玉の鈴とやまると 父の父

ののりと上より 軍人此よりと 農人おごつて ありて 不動

此所有縁の地とて 草を達し あり

高田を産むが 境内に 梅あり 是を根川とよみ 梅あり

根川とよみ 好久木とよみ 梅あり 此大樹 植やせ あり



植るべき寺のつゝ跡の所にて身了む。平鷹の市所にて植根を  
崩し入せらるゝ所。みまつゝ甲州侍の古塚多し。当寺の所  
也。

南向岳詣云此寺の前をり。大池あり。鏡の池と云ふ。則  
此寺の山号と大鏡山と云。鏡の池の北より池の南を流るゝ水あり。

○氷川神社

同所 南花院持

高田や者云里所。見を業所。ゆゑに名因縁と云。昔年一  
年。松岡前の神木と云。

氷川神社云。後神皇蓋島尊土佐男侍の社と云。昔年一

高田や者云。氷川社あり。各神。稲田姫命。女侍と云。或は。男侍  
の社と書ふ。一。女侍の社と云。右に。神像。昔年。安也  
ゆゑの所と云。

○砂利場町

根川原町より。高田の道あり。往來の海道あり。今。甚だ。道なり。昔  
七回。高田より。高田や者云。

○馬ヶ淵

○犀ヶ淵

○蓮花山金葉院

真言宗最勝寺

砂利場村

○守心齋傳法師



○宿坂

金栗院のあけ坂をいふ

江戸砂子に比立尾坂と云ふ誤りあり

注古史に鑄倉海道のあり 取中也此所宿坂の異をいふ

○咲や姫のやうり 俗に梅姫の中あり 下高田村に本 金栗院持

高田中蔵云々神比花咲戸姫佐梅姫の宮と云ふ前坂を

世にいふ梅のり

来涼雜記云山を清き塚と云ふ神木大木の梅のり云此社

富士城又の社也祭神木を甲耶姫命と云ふを俗語で梅

姫清きと混したるなり 清言塚を誤りして清き塚と

いふ也

○高田松 江戸中蔵云此山に梅のり云此所

○落台 上落台下落台有堂は名所なり 江戸砂子に

○東山茂森稲荷社 藤王院持下落台也嵐山の末

○嵐山

一名襟裾と云ふなり 江戸中蔵の古本に「嵐山」云

近世代記に「嵐山」とあり

○稲荷坂 久具坂と云ふ

久具忠平卿中「久具」は「坂」ゆへ也

○椎名所

○夕ノ坂



○但馬橋 下流合

○落合橋

○比丘尼橋 尼寺前向しをり也 下流合

○諏訪社 古多村 別当真言護国寺末龍池山玄國寺

略縁起云當社を何世の時より此地に鎮せしむと云ふ事を知れ  
然し人皇五十四代仁明天皇の御宇に永和年中在原業平卿  
當國流亡の時夫妻道を失ふ一抔此森の谷を隔て宿 汝夜  
妻失を哀み夫の事を憂ふ一舟の傍に神力を祈り一首を詠す  
うたか  
あすのまたくさくさのちかかろの影をすやゆゆ地

心深く詠む時感應ありて夢の如く去婦被たてて執心  
思ふにやかく然しや山に懐の森戀の森と云ふ事秘書に云地  
方より美人の皇太子の坂を崩れて御宇に文治五年の春源朝公逆  
徒退治の爲に奥州の郡の寺に山而道崩れ御社あり  
惡徒退治の所死す事ありて敵をたがふに後社殿而造る可  
又世に云ふ人王百九代後水尾院御感得して今此御神体あり  
附向し是御遺跡の感得也如く云ふ事  
南向原詣 思の森 恋の森と川を隔て杉大木三年河村老  
云龍池山といふ事古が太寺に境内にわく南方今尾叫山  
中しこの内より流水寺内へ流れて北に五九家やと云ふ事



また大寺池行もく、池山とありけり今も寺あり、川の流を  
高留と存云々寺、西の傍ありと云の地、元は寺あり、往々の  
海通り、尾陽公戸中、鎌倉海通りなるありと云  
は四つ三つ

○お伊勢系

大神より、河内神社より、此の森も、可なり

○一の澤

お伊勢系より、先きに記し、源南村の地

と云ふ、佳果の地、この堂の名物あり、この河内村より

今も伊勢系、河内

○源南村

○馬草川 源南村より、里民のやま、その川

○石田原 向精の、後下戸村の

今故田也、その名を不詳なり、石田氏の百姓、居たりと云

慶長後石田の名を、石田氏の改姓、馬草川下戸の所、家

松村氏の人数あり

○精山 下戸村の

この山は、東にあり、山あり

○精山稲荷社

宝泉寺持

○第六天神社

云

各神、面足尊

檀根尊

○水神社



祭神 周象廿命

此山より精の太木あり、向精の太木より大木戸、下戸塚  
おろす。島の内、山、精の山、向、耕田を隔る。其口精の山  
の南向、下戸塚精の山、北東、向了。田面春夏月眺望の景  
色地、異也

○慈雲山 観音寺

真言

南花院末

三所

○山 清心比丘

十一面 観音

弘法作 山の寺三三所の十四寄り

境内、赤黄栌あり

○日輪山 東福院

真言

三所

観音寺  
リキ

山

千手 観音 弘法大師

山の寺十三寄り

山辺を松、鳴子島より下戸塚、内より、つるを流す。小川を、錦川ともいふ也

○鳴子島

下戸塚村の内

高田より、産、往古此田の、腰石の地花あり、花毎々鳴子、縄を引、  
け、と、此地花、証訪村を、國寺あり、土、地花と、是也、と、

○瑠璃山 樂王院

真言 護國寺末

三所 塔寺村

往古中山、勘解由、殿、や、ま、の、跡也、上、派、宮、の、部、あり、今、御田山、と、  
此上より、鳴子、流、村、柏、水、と、い、ふ、所、一、田、と、い、ふ、の、地、畠、あり、

○黄龍山 泰雲寺

一乃福寺末

三所



山白羽道素和尚

中興法雲院慈榮元光尼元東福門院標之世之後尼  
武田並流の娘也

新編江戸志卷之九終

新編江戸志卷之拾目錄

音羽町 今宮 清戸 鏡地坂 田中

雜司谷 鷲山

小日向 金剛寺坂 新坂 荒木坂 服部坂

大目坂 浅利坂 切支丹坂 清水谷

藤坂 茗荷谷



一目白 関口 不動坂 胸突坂 大洗堰

新編江戸志卷之十

音羽町

元禄比護国寺御達立之系清水をうらぐりて此の町を音羽と  
名付く 青柳町 梅木町と名付九丁の敷二条より九条までを  
表す也、今此を鎮字とす也

○神齡山護国寺 真言 智積院末 寺内千二百石

本寺馬込石如意輪観音 唐佛あり  
元禄年中御達立也

旧文若詰云此本寺の本在宗代持うたらしむ一其佛を成當寺



而建立之時歟せうきしう也

永保院に上りて古の地は某國なりしを建三つに分ちて移さる

よきをあらわし

江戸砂子にこの地は某國を名する物なりしを

今宮神社 本寺に上りて

永保院に云々今更なる事なりしを

五社稲荷社 同吹上稲荷に吹上より移さる

一言地花 元文の比よりまゝをて本寺の跡にあり

○筑波山護持院 昔筑波知足院の宿寺 寺元千五百石

江戸砂子に始り知足院より石井町にあり元禄三年に建立して

神田村の外へ移さる享保のころに回祿の石堂所へ移さる

○清戸 音羽町二月より四月の西の上を云ふなり

○純伊周圍 同所南の方を云ふ

○鉄炮坂 私の名三丁目を西へ上る坂

大筒鉄炮矢場在るの所なり

○山高山 桂林寺 禪宗妙心寺末 四丁目

可山中に松源寺五世江山大和尚

○妙法山 蓮光寺 日蓮宗小湊末 五丁目

寺傳云寛永六年に湊訖生寺殿に依り大久保において地面を

紅一其右音羽九月に移り護国寺は建立し今この地五丁目の所なり



移りて之 甲辰 陽泉院 日行法師 在室三年 初死

○龍泉山 洞雲寺

禪宗

七丁目

甲山 心越禪師

○田中八幡社

八丁目

律者 田中 社行 故 甲申の八幡をふりて 久世 族の中

○松竹山 龍泉院

真言

甲山

○大野山 本淨寺

日蓮宗 身延末

護國寺西  
ノツキ



雜司ヶ谷

此所と雜司ヶ谷と云ふは往古の山日向金剛寺の地なり  
對して今も在りて今刻寺の傳記にあり

○威光山法明寺

日蓮宗

并山 日源上人

塔頭八字あり

當寺往昔威光寺と云ふ東鑑治承四年七月十五日武花國威  
光寺者依為源家數代御祈禱所院主僧宗圓相承之僧  
坊寺領如元被奉免之云

江戸砂子云當寺往古天台宗一并山慈覺大所あり日源上人駁  
川若本と云ふあり日蓮上人の謫一弟子あり後寺を轉一法祀



を私より

南向各訪云此所を嵯峨天皇弘仁元年飛騨丹波道一を尋に  
或人説曰五老僧の後法明寺有り是は谷中感應寺の古老僧の  
木像ありて天台宗に改了此當寺に納む一老僧の終末に穢る五老  
僧と納むと云

△鬼子母神

堂雪新語云此より西谷お聖道と云所の百地十左州つ  
美吉を工つともお老僧一何の時一東像木像を納り出れ皆打りて居り  
何佛にもんかききききと云きききき一十を州つ持仰り美吉の持佛  
にあま一竹をなはは不思議のゆきまき十左をた思をい中ぞ

民家置奉了(一)佛の尊れおえむ註句をみ感光山法明寺の脇寮  
・赤陽坊と云僧のくた人持り納まて置くけり此を痛く御世  
山伏をを、盗取てものをのけり祈禱の幸さるゝ云々 然も一お忍ぢ  
熱病流行一人のこゝに銭を糞りて鬼の母神あり何れ人あはし伏  
盗取ておのこゝにものをのけり祈りあはるる云々 山伏城さしをけり  
ありしうと云ふに赤陽坊のまうと云げりて立寄るけり云々  
江戸ゆき、云天山二年日照房と云油つらぬる。おにりりーを當  
きりつと云ふ

妙見社

鬼子母神のくく瓜

諸神社記曰妙見は星の神、推古天皇御子妹聖太子勸請永観二年申



三月晦日慈光僧正訖奉常故御社建之天竺宗之是可信一別  
法花宗之敬少く比所、奉之と云

路大明神

疱瘡の守り

大己貴命の臣 稻背命を尊し、履也と高湊子曰此出雲社之設也  
△古松樹

和漢三才圖説曰有古松樹傳云楠正成吳東下向時寓于此  
所植也云

△六老僧の寺

東陽坊

院象の時大行院

法明寺中

六老僧の御影あり各日蓮上人の附弟あり六老僧云々

日照 玉沢 日朗 池上 日興 富日 日向 茂宗 日頂 壽閑  
日持 貞松

身延祖是以身延山六家院と号し山中の扁也或記、知恵日照  
結侍日朗 筆藝日興 日答日向 行戒日頂 文賢日持と云

○九老僧寺

本能寺

九老僧、日朗上人の方子と云

日印 日輪 日美 日傳 日範 日證 日像 日戸  
詔慶

○十八老僧寺

常慶山蓮成寺

中老十八人、日蓮上人の附弟ありと

日源 日象 日傳 日法 日征 天月 日常 日保 日秀  
日祐 日得 日栄 日台 日禮 日賢 日忍 日明 日高

当寺、法明寺の隱居所あり 開基本山三誓日蓮上人 寛文三年十一月十七日他

○清慶山本立寺

法明寺末頭

法明寺の

開山 覺院日詠上人



△稻荷社

○御藏 藏王権現 本五寺持

○不動山寶城寺 日蓮宗玉沢末 御藏あり

茨山 日宝上人 宗徳大士寺出現大徳大僧正は作

○絃巻川

法明寺前の細き流をいふなり

○星跡清水 護国寺と雜司の田の中一夜の松原

星流く不鬼子母神出現の所也 絃巻川の流を下りて夜毎に可所

星下りしを里人あやみかこ所を求むる鬼子母神の傍有り也

○柳の下茶屋 此は柳の下とふ

○鷓鴣山 四ツ木丁の末

当所は鷓鴣の名所なり

○東煙山本深寺 日蓮宗妙満寺末 西暦部記

開山 院日安上人

起立不知なり

若菜の梢を往古根津権現の末建之末寺ありて同所なり  
今もかいたまひのりなり相分を竹の流をり同年大層部記前記  
を記ししなり△三子権現 △三子権現







○惠日山金剛寺

禪宗 吉祥寺末 上水端

寺傳云在大將賴朝公尾州お智神山崎の陣所なりて天竺佛の  
地花子を得て源家一統の祈をたへ 天下平定の後鎌倉  
岡覺寺の住安寺に在る臣等朝公波多野を勢を輔忠經等  
一寺を相波多野に田多相建三して孤舟和尚を為開山  
と云江戸下野入道心佛寺と或は江戸日向即金杉おたつり  
又明年中左田左用つ左夫持安再興り 永正六の二年助と吉祥寺  
洪州和尚の時吉祥寺也末きし中興開山天目中峯普應園  
師より今の開山吉祥寺五世用山元照禪師也ト云  
本報治康六年金剛寺住侶許の事と記せし今も當寺にあり

朝公の石碑りし左田道隆の位牌なり地花子山の上安室に在

○宝福山龍泉寺

浄土傳通院末 上水端

開山了蓮社定養上人向西隨河和尚

寛永八年末年始之

○安國山徳寧寺

徳州国府産宿寺 同所

元江州より天正三年乙未下路國実宿に移り天正五府を

移り江戸妙み出ス

○稱名寺

一向宗西末 同所

開基

元福の比起立より開基より三代とつり



○高源山本法寺

同 東末

同所

并是

○氷川神社

上氷の上 別當慈照<sup>山</sup>茂日輪寺神王宮城<sup>山</sup>伊勢守

社傳<sup>山</sup>日向返鎮字<sup>山</sup>勸請の手懸<sup>山</sup>評のまじ四五百年<sup>山</sup>の  
延<sup>山</sup>中<sup>山</sup>了社傳<sup>山</sup>を田<sup>山</sup>通<sup>山</sup>滝<sup>山</sup>再<sup>山</sup>且<sup>山</sup>下<sup>山</sup>と云<sup>山</sup>

○鶴高山善仁寺

同所

并是 鶴高日向善仁<sup>山</sup>と云<sup>山</sup>の<sup>山</sup>ま<sup>山</sup>を<sup>山</sup>し<sup>山</sup> 慈<sup>山</sup>之<sup>山</sup>所<sup>山</sup> 往<sup>山</sup>古<sup>山</sup>を<sup>山</sup>真<sup>山</sup>言<sup>山</sup>  
宗<sup>山</sup>の<sup>山</sup>雀<sup>山</sup>高<sup>山</sup>の中<sup>山</sup>鳥<sup>山</sup>の<sup>山</sup>并<sup>山</sup>是<sup>山</sup>を<sup>山</sup>ま<sup>山</sup>を<sup>山</sup>境<sup>山</sup>内<sup>山</sup> 鶴<sup>山</sup>高<sup>山</sup>の<sup>山</sup>經<sup>山</sup>路<sup>山</sup>行<sup>山</sup>

○福勝寺

一向宗

服<sup>山</sup>了<sup>山</sup>坂<sup>山</sup> 上<sup>山</sup>の<sup>山</sup>草<sup>山</sup>

并是

○南栄山清光院

禪宗 鎌倉丹波寺末

大智坂下

并山

○覺王山長谷寺妙足院 天台上野末

同所

略縁記曰本寺大日如來<sup>山</sup>往昔慈覺大<sup>山</sup>所<sup>山</sup>入<sup>山</sup>唐<sup>山</sup>のみ<sup>山</sup>ま<sup>山</sup>り<sup>山</sup>將<sup>山</sup>来<sup>山</sup>  
治<sup>山</sup>美<sup>山</sup>依<sup>山</sup>也<sup>山</sup>然<sup>山</sup>了<sup>山</sup>元<sup>山</sup>龜<sup>山</sup>元<sup>山</sup>年<sup>山</sup>織<sup>山</sup>田<sup>山</sup>信<sup>山</sup>長<sup>山</sup>の<sup>山</sup>乱<sup>山</sup>よ<sup>山</sup>り<sup>山</sup>て<sup>山</sup>山<sup>山</sup>門<sup>山</sup>の<sup>山</sup>中<sup>山</sup>社<sup>山</sup>佛<sup>山</sup>  
軍<sup>山</sup>納<sup>山</sup>之<sup>山</sup>兵<sup>山</sup>火<sup>山</sup>の<sup>山</sup>為<sup>山</sup>一<sup>山</sup>灰<sup>山</sup>塵<sup>山</sup>と<sup>山</sup>す<sup>山</sup>此<sup>山</sup>の<sup>山</sup>係<sup>山</sup>江<sup>山</sup>洲<sup>山</sup>痛<sup>山</sup>生<sup>山</sup>却<sup>山</sup>兵<sup>山</sup>主<sup>山</sup>大<sup>山</sup>四<sup>山</sup>津<sup>山</sup>  
の<sup>山</sup>森<sup>山</sup>移<sup>山</sup>り<sup>山</sup>ぬ<sup>山</sup>不<sup>山</sup>朽<sup>山</sup>と<sup>山</sup>し<sup>山</sup>先<sup>山</sup>を<sup>山</sup>救<sup>山</sup>ち<sup>山</sup>玉<sup>山</sup>ふ<sup>山</sup>と<sup>山</sup>り<sup>山</sup>る<sup>山</sup>我<sup>山</sup>某<sup>山</sup>光<sup>山</sup>り<sup>山</sup>を<sup>山</sup>昌<sup>山</sup>  
沙<sup>山</sup>才<sup>山</sup>美<sup>山</sup>依<sup>山</sup>を<sup>山</sup>得<sup>山</sup>り<sup>山</sup>と<sup>山</sup>す<sup>山</sup>且<sup>山</sup>暮<sup>山</sup>れ<sup>山</sup>た<sup>山</sup>ら<sup>山</sup>ず<sup>山</sup>と<sup>山</sup>信<sup>山</sup>す<sup>山</sup>一<sup>山</sup>子<sup>山</sup>を<sup>山</sup>授<sup>山</sup>  
け<sup>山</sup>り<sup>山</sup>と<sup>山</sup>四<sup>山</sup>う<sup>山</sup>く<sup>山</sup>の<sup>山</sup>念<sup>山</sup>せ<sup>山</sup>と<sup>山</sup>感<sup>山</sup>應<sup>山</sup>ある<sup>山</sup>と<sup>山</sup>云<sup>山</sup>火<sup>山</sup>一<sup>山</sup>人<sup>山</sup>の<sup>山</sup>女<sup>山</sup>子<sup>山</sup>を<sup>山</sup>産<sup>山</sup>ま<sup>山</sup>す<sup>山</sup>  
は<sup>山</sup>紀<sup>山</sup>州<sup>山</sup>の<sup>山</sup>仕<sup>山</sup>一<sup>山</sup>法<sup>山</sup>か<sup>山</sup>ら<sup>山</sup>ず<sup>山</sup>を<sup>山</sup>行<sup>山</sup>る<sup>山</sup>一<sup>山</sup>法<sup>山</sup>を<sup>山</sup>禪<sup>山</sup>尼<sup>山</sup>と<sup>山</sup>云<sup>山</sup>



当寺の山あり是處を借し此地に本寺を安置し一宇を  
建立せしむ

○光明山智願寺 浄土 知恩院末 大日如来

○正蓮社法譽上人

元牛止集土より移りて起立定永上甲戌の年也

○慈雲山龍真寺 禪宗 妙心寺末 眼戸坂上

○玄門 和尚

○源高院 小日向臺

○山

○生雲寺 蓮花寺末 音羽寺

○智鏡山 大田寺 浄土 傳通院末 小日向五軒所上

○兼蓮社 相譽法運和尚

起立 正保二乙酉年 地面借地

○清水山 専放院 真言 宝仙寺末 基町

○山

江府八十八ヶ所観音の内七十九番 是の横州山宗徳天皇と観音、  
何の之を、可の字像を、当寺山より、当住職、至て九千  
二也、乃々之

○日輪山 明照寺 禪宗 最兼寺末 若新各



并山 山空和尚

身替地 藏尊

源朝日人皇三十一代敏達天皇の御宇日羅授所難波へ持来れ  
聖德太子守屋連 退治の時太子の身替を立玉と云ふに六百年の  
後祇園寺御安座と云ふに子易の地也云々云々云々  
鎌倉尾將軍に仰せりて兼久二座毎年七月十七日豆洲におかし  
法雨山慈恩寺を建立し文子像を安置し寺を源元和年中  
武州に傳來し後多寺に安置し寺と云ふ

○ 満藏院台賢寺 天台土野末 若原あり

寺傳云并基春海洛多久末在云々と云ふに江島のものに海井

并山寺を改めお士あり地井あり云々奥の府お下田あり五人の所地

元和元年天下たすの所所のぬ湯殿山へ十人の行者をよき付し  
と地一也

出原院殿所遊去の後お家と居尾成菴室と云ふ御宇存す  
文珠を安置す云々地南音院院の御用地と云ふ人御地  
を寄し程経て寺の地を云ふと云ふ

花咲稲荷

○ 青竜山林泉寺

禪 法華白泉寺末

同所

并山

○ 清水山 源光寺

浄土 伊豆院末

上水端



甲山

○玉樹山 良念寺

小石川法傳寺末

御堂岡町

甲山 寛永七庚午創

地主御中間垣也

○妙峯山 徳雲寺

禪宗 月桂寺末

茗荷力

甲山 一公羽碩紫禪師

寛永七年創

寺傳云古大木の榎の本有り元禄年中此地御成の時榎木寺と

名有り一寺名をとり回祿の故藤の行い三西丈あり

毎年六月十八日觀音懺法執行有り

塔八 常應菴 永固菴 松老軒

○永昌山 長壽寺

禪宗 建長寺末

目所

甲 碩室廉大和尚

境内に岩倉并天社有り弘法大師作小石榎小石川の内に有り此の

上未詳一境内に小石榎の若木有り其藤あり寺傳あり此

此は小石榎の若木多くと小日向の光照寺を長壽寺傳の寺に小石

川は此の寺の邊にあり

○寶光山 妙行寺 正智院 天台 上野末 御堂岡町

寺傳云寛永三年創立元禄五年申年中興一可是決須法下

本寺 阿弥陀 慈覺大師作

千俵地 花子 藥師堂 昆首羯磨作

願満稻荷社 火除天満宮



縁起之菅相公御直毫の尊画也上古誰人の受来りやと云ふ  
此右大将朝公敬記のし尊像ありとのし鎌倉御前より  
風火起り殿内を焼く危しし独り異人學中一願を以て  
見し一忽雨凄しく火を消すや御前朝公火除  
天神と崇えたり何れも此より皇松氏何事の亦此像は  
皇松氏未禁武陽城西に位守の曆より西平四月十九日の火災より  
この縁起建失せり奇き事なり此像燬燼の中一恙なく  
寛文三年夏皇松氏未禁年余り一命終りて親族別脱  
しし像を移殿也此像係り元禄六年十月十九日正智院復修  
御前より尊画を崇えたり此像安んず元禄八年四月廿一日火災被

て半社危くしし此像の威化より火災をのぞきぬるお度る灵験  
此像をくむがたしと云ふ

○道 祖 神 上水場 祀門寺末  
南向祭詣云当社 明徳比勸清也皇松氏此つきし青木の  
勸清の碑を有しし碑 此像

道

左の方道の二よりなり

明徳二年十月十九日

右方ニ字ありとの碑あり

○○

明し文字ありしなり

来凉社記 面足尊 煌根子と祭る故方上天と云ふ也  
○金剛寺坂







○切支丹坂

新坂の西岸、一名庚申坂又今井坂丹下坂

切支丹坂、まじく坂故に切支丹坂と云、丹下坂も云、昔年丹

丹下と云人の名あり、故に今井坂と云、中比今井、向島の口

一、まじり、今井、本名庚申坂也坂の字、下口、古木の根、株を

て高保以、まじり、庚申の石礫、身、坂の名、今井、此石礫、引を、

庚申坂の名を、今井、人希り、まじり、記す、大寺、石礫、の、まじり、

庚申坂、まじり、

再坂、江戸、砂子、まじり、坂、道、け、まじり、道、まじり、まじり、まじり、まじり、

まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、

まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、

○獄門橋

切支丹屋、まじり、前、溝、まじり、まじり、地

○切支丹屋敷、まじり、切支丹坂、向、まじり

昔、此、坂、切支丹、宗、を入、た、まじり、牢、獄、まじり、まじり、の、まじり、火、災、まじり、新、坂

まじり、まじり、切支丹、宗、の、改、投、所、まじり、まじり、勤、番、役、何、馬、天、連

か、墓、まじり、まじり、まじり、無、用、の、者、入、まじり、まじり、まじり

○八井堀石

往、右、切支丹、屋、敷、つ、まじり、まじり、今、何、まじり、まじり、まじり、草、生、まじり

まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、

○高瀬屋敷

まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、まじり、



小日向切支丹屋敷より一飯の道也此より高床殿より五年寺の  
中一に名雅の木切きりといふ小日向を築つくりし志の成なりとの  
是と誠智氏の記しるしに別也

○清水谷

茗荷谷の向ふの谷に水をおたす所の裏なり

○茗荷谷

江戸砂子の服部坂上の谷に水みづ流りたり切支丹坂下より西の谷の志  
清水谷の向ふの谷也昔は所ところに多き茗荷を採りし故の名なり

○藤坂

おたす所の茗荷谷の下坂を藤坂と例え名つこ

○茗荷坂

茗荷坂先より小日向は上坂也左に江戸流跡守の石也

○西禪菴

専中和尙の舊跡江戸砂子の末すえ磨あらいりしと記され是は服部坂  
近辺にあり且菴の跡水昌三の遺跡と専中和尙の跡  
覚瑞和尙の跡と記され其の跡を記す也

○江戸川橋

此の名跡は村をよむ一休名跡り蕎麦とよむゆへに  
名けり新井より音羽川の流れをよむ

○江戸目録







或云水府の川に流成つて通用の川より流き出づる溝にうくる石  
村の往古神田の川より仙臺の人歩土地を歩ふ此溝の石村  
を車通用ありりけし板を敷きては度々破壊せしむ  
石村の川に仙臺家よりけりてゆへに村の名をいふなり故に  
得りて世に船河原を仙臺とすといふ故に仙臺村の石川を  
いふなり船河原村といふなり

○冷水の井

冷水番所

江戸砂子云むの地所廣野中まきまき御鷹餅餉の井  
まき名水ありて諸士の御鷹餅餉番所をおろし是を冷水  
番所とす然るに字係六丑秋は番所よりうきまき

里傳云天正比御入國の後小日向也御放鷹の事なり時御年當に  
御粥を召上りんきとあり諸士御鷹餅餉の井上意よりて  
俄にこの中島町の宿をたてて唐釜の大釜を敷けり也と汲み  
水姓よりていふなり御鷹餅餉の井のぬを汲せ御粥を煮けり  
ありて宿をたてり今中島町森川町の島所なり此の井の  
宿をたてしは明りなり此御鷹餅餉の井のぬを汲み

○泉之井

小日向馬場東大森氏にありの内より元生野中より

○黄金水

同馬場の内より今森末五郎殿屋にありの内は江戸砂子云むなり



太田道灌別館の用水として名水ありとあり——黄金を以て井に埋し  
のち元屋敷主内山氏享保の比より予不物語り有り——真州  
征伐の時源氏家降中の用心：坂らき——よりを修るる

○琵琶橋

小日向寺法寺土の山路より市島町へ来り所より石橋あり  
あり——中流琵琶をあらたむるを誤りてすま——より流れて死  
なる名所なり

○白鳥池

南向茶話：云江戸川中の村の下曲流の所往古大鳥池を白  
鳥池と云埋るる余地南の久永氏の宅地に跡ありと云

○万年橋

金剛寺のあり中の村寺所なる長家の向を河汁り  
石を以て村のありなる名所里談也

○小日向

貞享三寅年初に築くより吹上の枿を植うる牛込五軒所  
より此馬場を預るより——求原雜記に云

○戀ヶ崎

一名鯉ヶ崎と云河川の鯉のむらむら鯉を佳妻のよ  
然き——村の場所を漁りて少終る火を三尺に乃不  
鯉をとりと







之事を恐るるに當りし納むる事

○小日向山 生西寺 淨土傳通院末 小日向臺

可山 実養寺之旧典和尚 起之寛永六己巳年貢地

○安養山 運國寺 同知恩院末 同上水橋

可山 寛永八年未年起之

○ 日輪寺 禪宗 吉祥寺末

可山

○日縁山 長光寺 日蓮宗 小湊末 吉羽九丁目 目白

可山 正下院 日縁禪尼 寛永十一年九月十日化

○長仙山 清巖寺 禪宗 石川祥寺末 基丁

可山

元和九癸亥年起之 可基 加保勘介 中兵衛 基 大森山城寺

○花溪山 道栄寺 同 杜良寺末 服了坂上

可山 久山 全長和尚

○ 普明寺

石川 夕又寺 ヨミ

可山



目白 関口

南向茶話に云古此所より白馬の名馬出たり目白と稱す

よき記す

江戸砂子云寛永御鷹身の時目黒に封して目白と呼ぶと釣糸  
記す——ゆへ名付と書く何れを見ても之れは南向茶話に云ふ  
の説と駒と谷駒場橋の古史より所考す——目白也本一在  
関口也

○目白不動

真言別當 東豊山新長石寺

江戸名所談に本尊荒沢不動 弘法大師作湯殿に於て  
大師彫刻ニ驅の尊像一軀荒沢の沢に納りし一軀此尊

目白不動の尊像  
此尊は寛永四年に  
湯殿に於て大師  
彫刻せられたり  
と云ふ事あり



像有り中興有是長谷妙音院の池坊鼻秀僧西方より元和四年  
再興あり

○袈裟袂覆

本寺より有り

江戸砂子縁起より当寺に奉り野州足利何某の家より  
夢想より有り武州豊島郷某の望日任人松村氏より  
想より有り守り奉り増國と出たり時希たり袈裟を失ふ  
此覆袂袂有り板板山山在りとの告り領主源也石見守  
より有り此地を身付け草庵を建て

○不動坂

吾羽町より上り坂あり

○道山章神社

一名駒塚神社 神主官城島伊勢守

祭所慶猿田彦太神也

相殿一坐

求涼雜記云祭神猿田彦命 神社啓蒙云章神者猿田彦命也  
社傳曰鎮坐年数哉歳ト云事ヲ知ル百老の傳云往昔此所ハ廣  
原の地其時鎌倉海道の枝路也里人皆此處に住居ハ人皆長  
者の郎と稱を年代ナリ其姓名を失了長者金駒を鑄  
造して是を袖を即ち築塚植覆其處に猿田彦命ヲ安置テ章神  
と奉り崇敬定坐此より何方より黒駒一疋耕地に出して疾く走り  
里人は是を名りて数人、及ぶ人は是を追ふ時ハ山谷、隔り其谷を穿り  
駒の谷より又橋の上より其駒の行方を見失ふ事多し其樹名付し



駒塚橋より一朝夕ありて此駒道山神社の前ニ寝伏きしをんん是  
いしし黄金駒の精と云ふを去るる之当社神像海中出現し  
蛸壳方と神作付しり婚姻祈孔又武術君臣和合の祈孔悉く  
成就す 神木と授きり

○椿山正八幡社 竜泉山洞を寺持 竜隠菴

当社椿の名所也今古本枯しねきしり、僅きあり上の宮也

江戸砂子に尔当社を下の宮とれり、講りり、鎮守、甚年久く  
後天和三年二月十五日神主官城島政光 弟重好見の神像を  
置り如王里石 神号、次、我名を刻し、納む所、別宮水神を  
祭添ふ所也

○相殿神 妙見 水神 本宮 合々五坐也  
并天 稻荷

稻荷神社、菴地の際あり、関口村百姓徳右三つとらり、先祖奉之  
此神と奉神岡象世命也奉祀、上下官隔年、神平阿

○八幡神社 竜泉山洞を寺持 冥口

下宮と不関口水道町鎮守也古、冥口村と不神度冬祀神主官城島政奉仕

○胸突坂 椿山より目白へ上り坂なり

○大洗堰 上水の大堰也是より水と江戸川と三派に流る也

○上水

江戸砂子云猪頭池より落し至て清潔し、早懸り濁るる  
兼鷹手中江戸上水に堰り玉川とせり是、助水なり、此玉川、河越先



より多摩郡へ流きて大河なり流の末六郷へ至り矢口の渡り此川也  
ト云々

好、美應年中江戸に水掛し、誤りたりと武徳編年集成云  
大久保孫五郎忠行一向社の時勇を勵ま、大砲の当中り  
終、睡立れし上和田へ富より度憐し三百石を以て忠行を左工明五  
郎忠茂五男也常餅饅頭ヲ製し家莫を好して度々齎せり天正  
庚寅武陽へ御入国の時用水を規ふ言上せり旨命せらる所  
忠行多摩川の清泉を以て石川筋より是を通りて由其故を考へて則  
其名を主水と改めり、及、た、天正十八年より此用水の事、有るに  
美應といふ説も誤りあり



新編江戸志卷之拾壹目錄

一 深河 洲寄六間堤

一 猿江 五本松

一 本所 石原牛島

一 中之郷

一 柳島 押上

一 龜戸

一 小梅 崖崎隅田川







りぬく依し一字はたす所代設て正の備代勸法を同八年に元再無何  
に所神侍にまゐるわの所代し往昔源之位に政の守神たりて後  
千葉介の家より教辨りし後足利が氏を侍りしより鎌倉の  
公方村氏と細相りて其後上杉家と家敵し相成又右田邊清平  
侍りし依く住しりし持安の子孫教化しし給りし下路の國に徳  
重の所相見者縁の大高に依し今所の安室しきり同三十年  
癸未八月十五日始りて所代にたぬりしより以来毎年の所代記  
忘れしと云ふ也

江戸妙女、礪石集を引て云 和州生駒無動寺、一開山寶山和尚正保  
三年十に歳し、永代寺周光阿若梨の才子とあり、寛文四年臘八の

花室和尚冥受の子有り、法皇大隅と云侍りし不日し社成りす  
今の所川宿各八幡是也と云し

本寺。天地不動 寺付し、本寺を不動の王 和州生駒山一ノ三記  
の彫刻の字依し 天地不動と号し、其意謂りし、

当社四隅鎮守

東比叡社 丑寅 摩利支天社 未申  
荒神社 辰巳 大膳金剛社 戌亥

此四社境内をサ一畝を五町三町の所しり也

寺中 切畑院 多門院 吉祥院 大勝院 海岸院 愛輝院  
一の多門社より三四町西に有り、所の永代寺の至丈有、此鳥居より  
つる所也、所尾茶店より、塙鯉蜆が当所の名産也

○正元稻荷社 一之を侍り、側



○三十三万巻 八幡の東 堺や久きつ村

本寺より自観音 京都の大佛三十三万巻成 福光 福光の地を以て  
元禄年中此地に福光

貞徳神再板江戸妙子云云 京より寺の距離一京百田舎百の道の  
いしに亦同ありて元禄年中御の三十三万巻成 福光 京都より  
寺街勢有る為、寛永年中寺の所師信濃に於て修す所を  
成りて地おれ、を舎成れり寛永十九年正月也、を建りて  
堺や久きつ也 村木料滞りたるに保元年十月信濃より久  
きつへ渡り、永代久きつを寺に復し、信濃より渡りて、所修復料  
おれり上諸大名宛りて、おれりて、信濃に渡りて、おれりて、

同あり、宝曆十辰年回祿同十四辰年先規より、諸大名宛り、御進と原  
付再建也、明和六年大風を被り、倒れ、再建也、

○洲崎や弁天社 世に出世弁天と云 護持院末 別名海欄山増福院吉祥寺

其基知足院隆光大信正 元禄十四年造之

江戸砂ふる云隆光信正字、榮春河也、也慶安元己丑年二月八日、  
中元禄元年、知足院に、二年を經て、神田村に、道持院と、早水  
舊事名、信正、此社に、おれり、河成、社に、知、  
元禄年中、信持、八幡宮、正隆、公、命、成、信、持、此、地、お、  
陸地、お、奉、行、此、地、お、  
此、地、お、弁、天、社、と、云、



貞観神元禄年中一湖河也華立し伊奈幸を工つ保津八と云ふ  
友人へ京せらるゝと云へり元禄十三辰年十二月二日の事也  
伊奈幸を工つ保津八と云ふ友人へ金  
三枚時服ニ而羽織キつと云へり保川某地而華立也来し依り  
と云ふ

一四和言年一計壇此壇を入壇を棟筋をて所を壇基と云ふ其  
れは皇の御跡りい安永の今いそきたる

一西宮大神主 振野西太夫 兼帯

○お六稲荷社 洲崎 社守 竹殿了源

元禄十二年四月某日一町時時守より或人曰元禄稲荷より云々

今得しとお六稲荷より云々 永涼菰池に出分

○満穂稲荷社 保川大工町 別当 知光院

往昔此地三坪あり一坪三坪稲荷と云々は余程の地味寺附し満穂の文字を  
改りたり

○伏賀稲荷社 保川伏賀町 別当 徳光院

○永代島 八幡の島と云ふ

○越中島 永代島海を柳原越中寺稲荷社跡

○木場 洲崎年々天の赤い江府材木の町と云ふ

貞観補上代に云う伊賀町今川町の辺也元木坊也今保りし  
彼の辺の保本坊に云う保本の寛文元年申の圖







○海辺橋 伊勢崎町ヤル

○元木場 伊勢町の四ツ木の一本坊

○妙用寺旧地 寺町の坂町町

○仙臺坊 大川の上の樹の川に仙臺の花が咲く

○八幡坊 坂町名々大町町と川の川を大崎川と云

○油 堀 大川の下に樹の坊に伊勢町

○中の村 伊勢町大川町

○黒江川 川幅約五尺

○小石木川 川幅約三尺

自殿いこ此のるる信と云伊勢のりぬりこし予花舟の

延喜の年の江戸古陸園よりうまき信と云

○阿宅丸の着地

新大橋の少一地也此御船長リ三拾八尺胴の百拾九尺有

身形補再板江戸船子云此阿宅丸と云御船元来山田原北條

家の軍船と云樺木を以て丸長リ三拾八間胴の問板九間有 由寛

永十年御船手白井将監忠勝仰付らる相成り家より江戸

一而取寄 同十二年六月忠勝と云上覧あり 天和年中

故有し此船所たみ遊せし 是皇印の伝記に此船之伊豆国下

田浦よりうちたけり所船出の度毎に船の響き自出と伊豆

かえりしうありたる所所漬し道 由凡す之此江戸入の時



元祖猿若助のゆゑ金のなるを音頭をとり江戸の堤へ川  
入の中付るこゝに

貞元阿宅丸はもせ玉びし天和二年壬戌九月十日に存せ  
し皇弟舟屋守成鍋島帯刀就右寺り存付た向井持堂マ  
カ右寺りしし日池に

○船玉洞 御舟倉の舟所水まゑのたしこの内

○各神猿田丸寺に阿宅丸の舟玉を勧請せしと

○高橋 長指八間海田左町に也五岸のうけ

○六子池 大川のつ東川まゝ六子

○神の宮 六子池 別々猿に 泉養寺の魚帯

慶長年中泉養寺の山秀順法師の時鎮まると

○伊勢橋 長五子 六子池に掛る

貞雄云此をを汲りて末に松平伊予守がたにうねれに伊勢村々  
に

○猿子橋 長五子 六子池に掛る

○芭蕉庵址

江戸ゆ子境篇に六子池鯉を存をつとて魚售の御おやに

六子池に蛙花とむ水の音

是に此庵室との句也池淵に魚を狩りて澤草のつら  
吉池のちりし比ん今に他の方にとりて由也



寺院

○天王山福元寺 灵雲院 禪宗曹洞寺 瓦二百石 清和の代  
開山 政光 東明 和尚

貞地補本尊持放觀音 唐三藏玄奘彫刻ト云テ

当寺の語字 四珠 瑞荷 額 吉田 兼地 卿 等々 当寺の宝尸

七年 中春 一 造管 翌 貞 仲 中 殿 志 成 此 山 門 天 王

山の 筑 城 今 年 新 地 引 寺 号 一 而 教 五 也 創 田 九 年 己 卯

七月 卯 未 卯 を 下 一 五 引 寺 瓦 五 石 を 附 一 五 引 寺 瓦 五 石 十 年

庚辰 三月 廿 日の 大火 一 故 也 悉 焼 亡 一 今 一 山 一 石 五 引 寺 瓦 五 石 十 年

○當智山重原院本尊觀音寺 淨土宗 智恩院 末寺 瓦 三 拾 石 重原寺 向



甲山火谷上人中興行卷上人 宝物佛牙舍利

奉了唐佛阿弥陀 觀音菩薩 江戸三十三所の内 廿五番

江戸妙子云当寺の馬喰町上寺町より天和三年八月二日朝鮮三使到着

同廿七日登城九月十二日慶長同年十二月廿八日奉御大田寺より火起り

殿を灰燼と成り翌年此地に移り

石地花巻 此石佛神の部路し中より一戸治事より寺にあり供長

佛ありの年号月日のしありし享保三年戊戌七月十五日より江戸にあり

を在りての老若群集あり恒代世を

塔 法雲院 普照院 晴徳院 江月院 龍雲院 栄受院 法林院

頭 浄澄院 正徳院 良心院 真善院 花翁院 群名院 清心院

自林院 妙光院

○瑞穂山臨川寺 禪宗 清泉 海也左町

甲山佛頂南禪師 寛文此契云

佛道を成り翁初之当寺より佛頂和尚のありとあり別号あり此の

佛道を桃の青きつりし 桃青と名をとりし佛頂和尚と云ふ

桃青の位牌あり

○道本山東海院靈巖寺 浄土宗十八檀林の内 深川の内

甲山檀蓮社雄略上人 檀心五重巖和尚 寺に五丁在

上塔園小糸屋屋見氏に江城の奉法大伽藍を建立せし阿多沙く

四衆を勧進して土一貫をとりて来りて別十念を授けり血脈を

よみて結縁と云ふ不日して廣河平より陸地より今の更岸あり是の殿



世落慶、は寛永十八年九月朔日、汝の知恩院に於て入寂時八十八歳  
 第二世珂山和尚に代り、享和三年丁酉正月八日回祿し此地に移り  
 是海濱に珂山の門人珂破、命じて築り、もと再板江戸砂子と云ふ  
 貞觀之明和七年八月十五日夜、火災、本堂計り焼失せり是を再板に  
 江戸砂子、明和八年辛卯回祿を事とし、火患炎上り有此況れ違也  
 観音を江戸三千三所 二十九番 不動 勢至を  
 江戸六地孔 五番 念佛を雄松院 所化登 淨栄院 正覺院  
 榮壽院 長壽院 源松院 安養院 淨淨院  
 ○龍徳山雪光院光嚴教寺 淨土宗知恩寺末寺瓦五十石 貞光寺  
 甲山運蓮院往來潮香信入和尚

江戸砂子云當寺に阿茶局運五當寺造立の時御上り材木を下り、及び  
 又黄金三千枚口物と云ふ事時慶長六年庚午上りの黄金を以て建  
 立し、ま也神の地、馬喰所八ヶ坪の地を以て貞觀之是今の伊茶甲まをり 御上り、  
 依り毛利長つす院福高をまつ大夫次銀島信懐が代、是之明曆回祿  
 の後園田にて所替り五千六百坪に成り、天和三年壬戌十二月廿八日回祿  
 翌三年今の地に移り、四千五百坪外に四百五十坪餘地、田中徳庵の  
 寺附り、ま也の御上り地を以て、運上人に當園坊を御騎、西爪上り人お  
 のり、天和七年辛酉、代姓不詳増上寺十二世觀智國師の弟子となり、是光  
 院住職十二年の在、治星石金戒光明寺住十年、慶安三年丁亥四月十三日  
 寂、神尾家傳曰阿茶局、幼少川原元の士神尾孫、用室也孫、



周多元と同く桶狭山に討死の后、河内府父の飯田氏より甲州飯田村に居  
り故、父の元より右に七石土跡例に泥迫を元和七年辛酉六月十八日  
廿御所之内に時式尾公供奉し奉りて一延に敷せりし勅に雪光院の凱  
を以て二品親王良繁の御所なり是尾公の院号也此院宮院に非ず

法藏院 淨慶院 良正院 正覚院 一言院 正光院

塔頭清心院 長源院 養壽院 仙藏院 專壽院 樹光院

慈法院 淨量院 清光院 淨心院 固頼菴

○法苑山 淨心寺 日蓮宗 身延末 寺領百石 三石寺領

中身并是 日念聖人

貞雄稱 寛文貳年四月三日 寺領の所末印を以て 是は是は下

孫守母善權所因也也と所日記に見ゆ

一兼院 玉泉院 田隆坊 本立院 唱行坊 善慶院

地中 宣明坊 延壽坊 台八院

○大字 奥国山 万祥寺 禪宗 海福寺末 海之新田

可山 凌雲和尚 本尊 火焰地藏 毎月廿四日 戲法

再板に戸砂ふ云当寺の享保の初一寺と申す心八ヶ庵といひ刊

即しとし

○惠日山 真光寺 同宗 墨滝末 同所墨江町

可山 潮音和尚 中身 大綱和尚

○蒼龍山 宜雲寺 同宗 妙心寺末 同所



開山 卓輝和尚 元祿七戊午年起立

○日照山 東寺永院法禪寺 淨土宗 知恩末 同所 聖光院 隣

開山 長蓮社 心阿上人

江戸妙子云 当寺往在八重洲河岸之今之正月三日 鉦鼓を鳴りて  
見下むに 御伽をいれ 卯春三日 老鷹せ 例中成り 土佐馬  
喰可上寺有り 天和年中 今の地に移り

塔乳 常照院 宗心院 南童院 良信院 専修院

蓮葉院 玉樹院 専求院 貞照院

○福聚山 赤耀寺 禪宗 月桂寺末 同所

開山 潮音和尚 中興 千山和尚

○祥雲山 善徳寺 同宗 四谷童昌寺末 同所

開山

○深川山 貞徳院 正源寺 淨土宗 増上寺末 富吉町

開山 南谷上人 寛文十一年五月廿二日寂

○天護山 因連寺 淨土真宗 東本願寺末 大島町

開基

○瑠璃光山 万徳院 真言宗 永代寺末 蛸町

開山

○感益山 西念寺 淨土真宗 西本願寺末 八幡町

開基



○長光山陽岳寺

禪宗 妙心寺末

寺町

關山

○賢臺山法華院賢法寺

真言宗

カサノ善壽寺末 寺町

○開山覺春大和尚 寛永廿一年寂

間魔堂

○幽還山理照院玄信寺

淨土宗

知恩院末

心行寺上り

○開山還蓮此本卷上人玄故大和尚

寛文六年玄故和尚灵夢之儀了却

五才 本寺河内院 惠心僧初作 末期彫像也

崇徳院院所并附存りてむ多の別院に在り江ノ初子

江爲一侍分身の亦才天母堂 寺中 信淨菴

○双修山養源院心行寺

淨土宗

増上寺末

同日海福寺上り

○開山園谷上人中興三卷上人向西是天和尚

孤抱観音 三月不節 寺中 影定伝 正寿院

矢除子手観音 多田満仲持佛也

○永壽山海福寺

黄檗派

玄沼末

同日増林寺隣

○開山 隱元老和尚 寛文十二年壬子四月十一日寂 万治元年戊土月起之

中興開山 獨牛源和尚

○海照山増林寺

禪宗

叡高林寺末

同日

開山

白衣観音

江戸三三行の内 三土番

○三聖山 惠然寺

日宗

市谷月桂寺末

同日正覺寺隣



開山別傳今禪師宗久和尚

○大音院山響音流院正覺寺

淨宗 招源寺末 同所

開山

千手觀音寺 留浮提念 敷朝仰持佛 江戸三子二可本三子寄

○日照山中央寺 大日寺 禪宗長慶寺末 亦無痛

開山大土堂不母和尚

○當目山西光寺照明院 淨土宗 知恩院末 同所与同所

開山源運院社信長重政英松大和尚 慶長土西平山林久西叙之

觀音寺 江戸三子三所之内二十七番

○高照山勝福寺 天台宗 上野末 同所

開山

柳舟神社 往昔海軍通りの側にありし馬喰町四町の銘守より分

て移し今の地に移し江戸の御子に也

○東光山要津寺 禪宗 妙心寺末 同所与同所

開山 貞享年中牧野信俊守左記之

○蟠竜山天樹院長慶寺 禪宗 越後新寺末 森下町

開山 大土堂不母和尚

富田稻荷社 觀音寺

當寺、芭蕉翁其角嵐雪寺の健沙弥の碑あり

○咸益山西念寺 淨土真宗 西本願寺末 里江町



猿江

此江より民家へ猿江村と云所家と入交りあり世に寺所の方へ属す

○猿江縮居社

妙壽寺兼帯

鎮守の年代以知れり当所は鎮守

○五本松

小名木川に通す

江戸陣子に云松浦玄壽氏存し所の方松一本有り云「五本松」者今と所の名に云

○不慮山常智院重願寺

猿江

開山願登上人 毘指和尚

寛永十六年己卯起す



○本覚山妙壽寺

日蓮宗

同所

開山信入院 日崇上人

正保年中起立

○萬徳山廣濟寺

禪宗

里滝末

猿江

開山 潮音禪師

○醫王山無量院泉養寺

天台宗 上野末

台所

開山 順秀法師

慶長元酉申起立

元禄六年癸酉起立

西條町に移す

○立野山慈眼寺

日蓮宗

台所

開山 日遼上人

元和元卯年起立

元禄六年癸酉起立

○覺王寺

真言宗

善門院末

台所

開山

慶長十九甲寅起立

大所

里談云往古本庄と言ひ或元禄の比寺在家盛ちり一時  
本所と改めり云々

統永云云一乃始ニ元年此地を拜せらるし。天和二年故動し士民の

居宅引拂りし田圃とちりし野釘の中の声い淋しかりし云の

元禄元の春より元のゆくゆく之を今に至りて益繁花の地とす

○宗財神社

一之橋南

惣掾板支配

元禄年中惣掾板抄山試の起立今五り惣掾板の持也

○深川八幡御旅所

神傳馬上の神像 宗天の南隣

御船藏 一の橋也新大橋迄の間大川をくす



此道をすべて安宅の平鏡砂のりく今此地の勢もまたさか通河の志  
任所山伏町を有り寛文の時安宅丸の舟をなうなり所也

貞治云寛文の時安宅丸をなうなりし時、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
「安宅丸のさかすなり」也安宅丸の舟をなうなりし時、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
正成九月十九日命有り、城奉行の舟をなうなりし時、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
舟をなうなりし時、<sup>書</sup>誤りたり天和三年

○堅川

茨の一平、云本所一ツ目通し、逆井を止境、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
感う正し、元和と寛文五六十年迄の舟をなうなりし時、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
鏡砂のりく、この村長十ツ、村も九ツ、三ツ村長九ツ、中の村、<sup>書</sup>誤りたり天和三年

四村十ツ五ツ橋を有、船渡一也六ツ目と橋あり、橋と橋とのりく、<sup>書</sup>誤りたり天和三年  
種有り

貞治云堅川、浅く早川の入口より逆井の渡一也三里八ツ四橋あり

○撞木橋 中のりく、前三方、<sup>書</sup>誤りたり天和三年

○扇橋 小名本川通し、新高村の所、三方、<sup>書</sup>誤りたり天和三年

○榎木稲荷社 菊ッ叶三所目、別當、山修験、吉祥院、  
末社、陽社、稲荷神社

○元御藏 日向院のりく、<sup>書</sup>誤りたり天和三年

○上野屋鋪 日向院のりく、<sup>書</sup>誤りたり天和三年、元祿の比吉長と野介殿あり



鋪跡あり、町屋多し

○駒止橋 西国橋の東詰、橋を大寺、延成院、花かき、石所のふせ也、入坂の橋、成云、江戸砂子、出づ

○片葉の芦 駒止の溝の芦也、依て依し片葉堀とす

○藤屋敷 大川通り、杉浦家の第宅、成云、むら、名木、其、茂、お、由、古、老、之、付、子、此、館、大、木、の、榊、行、り、之、榊、木、を、成、と、依、は、是、成、堀、の、森、と、云、江戸砂子、あり、むづ

○駒止石 榊木屋敷の所、大川、また、の、通、の、中、に、丸、石、あり、里、談、に、ル、八、幡、太、郎、奥、州、参、向、の、時、義、家、の、馬、此、所、に、留、り、と、云、江戸砂子、あり、むづ

○御材木藏 榊木屋敷の南、享保九年、猿江、移、り、御、材、木、藏、と、云、江戸砂子、あり、むづ

○本所馬場 御材木藏の慶

○割下水 北割下水、南割水、と、兩、所、有、り、是、を、む、り、中、に、田、地、の、時、の、用、水、の、り、江戸砂子、出づ

○石原

深谷本庄の内、石原村と云、此所、成、往、古、本、庄、と、云、り、此、所、以、石、原、と、云、り、古、老、の、説、也

首提云、石原と云、所、深、谷、本、庄、の、内、に、あり、熊、野、宿、の、西、の、方、に、石、原、お、り、此、事、ゆ、へ、武、島、大、里、郡、の、内、也



○埋坑 石原の内也坑方一尺埋て今町屋と成る

○并助天 石原の内 清雲山 即現寺持

鎮坐の年曆を知らずあて此之次并天お出といふ

○牛御前御旅所 石原

○横川 豎川に對しての名を川幅十二三有

○鐘樓堂 横川の西川に之入江所あり

○中之橋 横川のこのり

○法恩寺橋 中の橋の次

○亀戸橋 法恩寺橋の前より天神のあり

○牛島 橋を大學頭殿花屋鋪の辺より牛の所ありの辺迄

貞久く上古兩國橋田向院の辺を牛島といひて見たり明暦

三年田向院地面より時の御日記に牛島に於て寺地下をさしとあり

### 寺院

○國豊山田向院 浄土宗 増上寺末 兩國橋東

并山増上寺貴屋上人 式也信譽上人

江戸砂子、云当院、明暦丁酉孟春十八日、火災、死にせし所の十万余人、  
七十年人の己魂の爲嚴命、依て草創あり、三世中興、樂蓮社信譽  
上人、初六、小石川、知香寺の任職あり、以、当院末在任職あり、依て推し



齊二世の位に佛像を作事し、州を得希、蓮の實を<sup>用</sup>礎として金珠、管  
珠、水晶、積り、三十余石、今寺前の蓮池、蓮の葉、蓮の藕、是、何種、  
當院、寺より、世傳無縁寺と号す、事、草創のし、ざり、寺の本寺の  
地、一堆の義塚を、後年塚の上、金銅の弥勒を、母を、今、寺の、  
南向、建ち、天和二年、戊午、正月、廿八日、の、火災、如、  
建、了、金佛を、存、了、元禄十六、癸未、年、十一月、廿九日、又、火災、因、  
弥勒、銅、り、  
立、鑄、形、を、以、て、本、寺、に、各、置、れ、  
△鎮守并助天社 景菴并天、  
山、之、勸、行、名、佛、の、  
江、戸、妙、子、の、

上、之、持、り、大、師、の、彫、刻、り、  
護、法、神、の、此、時、  
江、戸、妙、子、の、  
△一言觀音

略、縁、起、  
佛、勅、を、當、り、  
寺、の、由、を、告、げ、  
任、持、直、西、  
土、地、農、  
と、蓮、臺、



新影寸一言も成れば故に世に一言観世音と云住職香卷之の世  
に宮殿莊嚴誠いちぶらゝ聖賢世に去り所なきに果して  
△兩宝童子 上宮太子二体共五也名是上人の造立なり太子の所  
有は佛を家の臣より奉納のより江戸妙子にあり

△馬頭観音を 明暦年中公侯の御馬を奪つ塔の上、獅子無畏  
の像を造立れ 瘡をいりしと云はしあり

△三佛を 万治年中所奉り所より穿死刑死の亡魂の乃て一寺の  
堂を建立たり 陀羅經廻火日の三尊次第置り 岸石塔一基造立り  
江戸市中を 毎日佛銅を乞ふ所の僧十六口あり 住すと江戸妙子  
に月々の

○高野山大徳院 高野淨佛殿 別名 真言 一ツ月 田向院 後口

本尊薬師 境内、南都大佛殿勧進所あり

○万徳山弥勒寺 真言新元觸頭 寺領百五一ツ月

常寺馬喰町上寺町、有りと天和二年此地にうつり

塔以法樹院徳上院 正福院 宝珠院 正徳院 龍光院

貞雄補当寺、馬喰町上寺町旧地と諸書に侍りとも右徳園を

以て考や、今の元岩井町弥勒寺旧地其比、彼ら也を馬喰町上寺町

と云い

○天恩山羅漢寺 黄蘗派 五ツ月

○鉄眼和尚 中興 象光和尚



李尊親迦文珠善賢五百羅漢像共沙門松雲造云々

元禄八乙亥年八月朔日大田廣惠國師并眼真日寺号山号の類書  
を中興象先和尚江都市中勸化を以て本堂羅漢を方丈の  
を尽く建立有り享保年中一世僧長執りて羅漢中像三尺五寸  
本寺の昭王七佛を台に柳子白象凡八九尺若組有り江戶城の  
舊事若諾云松雲元佛有り像鉄眼和尚の方子有り出  
寸所云汝世徳世徳僧之何一一生の大石を起す一松雲  
考て何白松尺にて云今京都五百羅漢の像一尺の  
大石是を刻む一松雲と云傳力も及いたらん云云是  
一是を汝一生の大石と云一先づ本寺五百十全脚五観音勢至

五今づ五百羅漢一併と七全と足きて施置何を彫む一松雲云々  
考て大寺いさ誰人が施さる一いつの時大石成就すらん  
是を汝一生の足らぬ程成就す一先の大石の成り大石を起  
す一松雲何の年清心先説羅漢二併を高を一尺三寸作り彫  
て師に見す一鉄眼見ると大石と云やれ松雲何や一松雲云々  
汝の云く汝上自り出来て是より一松雲の心のちいささを失ふ  
此像甚小一五尺の人の居る松雲彫む一松雲云々一佛像大  
く成就せし一松雲云々一松雲の不然代唯云々一松雲云々  
教の具は好く意極共成就一併の施す一松雲云々一松雲云々  
備石守成一併桂昌院一松雲十併去一松雲一松雲云々成就す



初め海子観音境内にあり、出来て彫む正徳今の寺地をいふと此黄  
檗鉢眼和尚の日本、仰て一切經の藏板を起し、三万金を以て成事を  
了す所也

毎月朔日観音藏法十五日大般若轉読七月中毎夕山門施餓  
鬼十五日毎日大施餓鬼なり、江戸惣麻子名所大全に出づ

表門明和七年より八年に至り成事す、境内布袋、冥羽、四天共におや  
作り、款天恩山、寺中唐佛観音鉢眼和尚入唐の節持事の

開山を象光の像に重の後に石碑と有り

○鎮護山 碩運寺 禪宗 駒込大円寺末

附山 榮博大和尚 慶長元年起す

新美稻荷社 本尊 聖観音

江戸砂子、云此稻荷川往たり石原の鎮守なり、慶長元西甲午此地  
一寺を起す、境内東西に十式有、南に捨八字あり、九三九十九坪余

館林茂林寺末駒込大円寺末也、附山榮博和尚此地を再興す、同古年  
十二月正木丹膳五九畝六歩の地を寄附し、是碩運寺全道庵とす也

○高菴山 普賢寺 天台宗 上野末 牛島大菩薩

開山 文明五癸巳年起す、中の御方天別寺

○玉島山 明星院 東江寺 天台宗 上野末 同所

開山 天正十一年孝若起す

△多田羊師 略縁起云、村上天皇御宇天徳二年、多田清仲



公四十七の御時損州多田に有て惠心僧都に御頼り尊師の末不動  
昆河門を御造立けり龜山院御宇文永三年春國中大乱あり兵  
抄羅連山にあり堂塔を焼失し山大衆悲し三尊と惠心僧都御自  
弊筆の法華經系満仲に奉るへ自ら滿一の佛書石の唐櫃に入奉  
まの窟の埋む三百三拾四年に過ぎ慶長元年不忠謀の告あり多田  
にまよと云人皇を焼せ九月八日と夫より京都東山に安置の慶程即  
東武ニトリケのあり安置

△鎮守三度稲荷社

△鎮宅靈府本を

△元三大師を

△地藏を



中ノ御

南向奉詔云業平朝臣はかり飽きりぬ里人も中侍の御と云し  
故里談に得りし中の右と云ゆらませしと古卷の村夫語に付ふと  
し此事業平天神の縁起と云ゆ

○業平天神社

別当業平山 東泉寺南藏院 天宮山

社傳云元慶年中在五中侍業平朝臣の可成り給ふと云事終  
り五百歩の浦に船遺棄のれり俄に悪風も来りて船毎悉く  
つらりぬるも中侍の船は艦城破りて漂流をせし事即ち  
此浦に舟を彼の所舟具流着し事を艦島 揖島 城島と  
て今地名を斯く中侍の末世に流傳をくも人々に伝へし事



衣冠の靈像を彫刻し玉りて里人、附庸し、或は村長船島、社を造営し、  
神供を捧げ、跡を東泉寺と云ふ。當時九代、任信良海法師、其夢に  
依り南藏院と改号し、世業平塚と云ふ。中將自云、其字、あふ法華、  
軸、並、駁路の詠草を地中に埋入し、八重の梅一本を植ゑ、  
ふし、経塚と云ふ。往古を木立物あり、中將の森と云ふ。と云ふ。世業平朝  
臣の御位あり、向果人、共中將の御と云ふ。を里談誤り、中の御と云  
ふ。と云ふ。

求涼難池、云往古、河社横川、向、梅、向、横川、河、割の、時、今、の、町、の、  
跡、を、旧地、に、今、水戸公御下屋敷の内、入、之、嶋、島、揖、島、城、島、と

皆、梅、水戸公御下屋敷の内、入、之、嶋、島、と云ふ

將、業、平、天、神、の、數、記、の、一、年、に、上、総、国、業、衡、と、云、武、士、  
有、り、戦、ひ、討、死、せ、一、次、場、に、つ、た、た、り、

江戸、麻、子、の、成、平、と、云、相、撲、の、向、り、可、み、ま、り、は、上、中、の、壇、に、  
て、成、平、と、云、江、戸、砂、子、の、向、り、之、の、云、水、孫、の、比、安、房、田、里、見、と、留、尔、  
北、條、と、戦、ひ、町、里、見、義、廣、の、才、成、平、才、所、を、討、死、を、神、に、奉、り、  
成、平、天、神、と、云、成、平、塚、の、其、古、塚、を、見、り、寺、の、説、何、と、信、疑、  
里、見、と、北、条、鴻、の、臺、に、戦、ひ、時、里、見、成、平、比、所、討、死、せ、一、事、古、言、  
し、其、証、據、を、一、附、会、の、説、即、ち、江、戸、砂、子、の、繞、篇、に、  
東、都、江、戸、の、所、に、寛、文、の、比、を、業、平、と、云、名、せ、一、者、可、所、を、



討...と埋し里の童へ其塚に業平橋と云ふ由を記す可況也  
可況也

△光明稻荷社 業平天神より

△大日堂 同門前より

△石地藏 俗に云はらる地花と云ふ所望の事有る見也

傳れ故に云ふ也

○八幡神社 別当 泉竜寺 吾中の御所

社傳...天明七年乙未年鎮座のり

○大六天神社 別当 普賢寺持回所

天明五年起之

○業平橋 業平天神の側に城橋と

○法恩寺橋 長り橋間

○築止 水戸屋所中への北築用の土也

○源平橋 同所而屋中への前俗に源平橋と云ふ

○中御山源光寺 浄土真宗 本寺跡寺末中の御北判下水

甲巻

○大方山廣佛院華嚴經寺 浄土宗 傳通院末 同所

○同山向蓮社一巻之信阿和尚

甲巻の末の...毎日四巻を毎々花嚴を講せりと江戸初子を

華師如來 惠心僧都作



○東栄寺

天台宗

最勝寺末

同所

开山

○隆哉山出山寺

天台宗

同所 志場

开山

貞雄神 江戸惣藩子名所大至、ソノ自然亦出山の釈迦の像有り、三工の妙自然、成り嘉代の像有り、往し拜水可し、と云し

○送光山泉竜寺

同宗

上野末

同所 出山寺海

开山 宗賢大和尚

文明三年卯年起之

貞雄神 中興 慶順大和尚

○正覺山妙源寺

日蓮宗

牛島之内 北本所 荒井所

开山中老僧天目上人

建武年中一草創

○如法山感應寺

淨土宗

幡隨院末 比丘尼寺同所

开山 空運社香芬上人

清董比丘尼

神代清董寺より元禄十

四年巳年寺地移飲より、桂昌公御執立の後寺号を改むと云

中侍姫簾名号寺行物也 常念佛

开基 増上寺 貞登大僧正也

○長景山清光寺

天台宗

浅草末

同所

开山 俊能法印

文明三年卯年起之

○是庵山實相寺

日蓮宗

本寺寺末

同所

开山

慶長二丁酉年起之



○延命山栄寿院

禪宗

福巖寺末

同所

○開山 明暦元年起之

○白牛山 桃青寺

同宗

妙心寺末

同所 小梅代地

○開山 玄明和尚

延享年中 近定林院ト云フ

○中島山 福巖寺

禪宗

吉祥寺末

同所

○開山

延徳三年起之

○正栄山 妙縁寺

日蓮宗 大石寺末

同所

○開山 日舜聖人

寛永九年申年起之 日舜川本寺 大石寺 九

世の住也

○向東山 天祥寺

禪宗

光林寺末

同所 小梅代地

○開山

松浦家中興し 開基の由

○三圍山 真珠院 延命寺

天台宗

同所

○開山 弘法大師

三圍稻荷別寺

自雄補 江戸惣席子名所 大至云 当院 瓦の不動尊有り 中の

御瓦師 中氏云 此作 此彦六と無双の巧く 瓦器 諸物を

作し 諸工の 亦及處也 中し 佛像を造る事を 得たり 正保四年

九月 高野山 蓮華定院の 任職 盛立 法印 所望より 俱梨迦

羅不動の 像を造る 彼寺の 開山 行勝之 明王の 化現と云 付々

故 周く 諸工 命し 其像を つつし むく 佛工 画師と 院主の 望

の 如く さま 事 したる 九 松此彦六 瓦を 以て 作し 所 精神 生動



奇、妙、諸人驚歎せりと云事也。院主感心の薄、件の旨趣をまてし  
一、樞、利、用、の、人、を、持、来、り、を、予、に、せ、し、此、地、に、之、を、力、付、  
彦、六、等、の、人、の、権、の、力、が、一、の、地、に、住、り、由、在、都、凡、師、の、始、つ、て、寺、の、以、  
よ、の、事、を、お、し、し、と、云、こ

○業、山、東、泉、寺、南、藏、院

天台宗

同所

業、山、忠、家、法、印

自、性、補、江、戸、總、康、子、名、町、大、堂、業、山、林、能、法、印、本、寺、聖、觀、音、地、主、神、明、  
光、稻、荷、当、院、九、世、住、良、海、法、印、靈、夢、に、依、り、南、藏、院、と、ま、れ、り、と、  
又、同、書、に、業、山、塚、の、形、取、の、事、を、記、し、を、れ、り、船、の、形、と、  
見、た、在、五、中、持、ち、を、り、事、を、傳、へ、り、知、り、人、を、お、し、し、と、云、こ

神社つては、と云し

○醫、王、山、松、林、寺

天台宗

浅草末

同所、お、し、し

業、山

○照、法、山、奉、久、寺

日蓮宗

下、サ、本、土、寺、末

荒井、川

業、山

○牛、寶、山、明、王、院、最、勝、寺

天台宗

上、野、末

中、の、御

業、山

中、の、御、前、別、当

貞、觀、年、中、起、立

不、動、明、王

良、井、僧、正、印

寛、弘、の、比、度、々、御、成、有、り、御、殿、の、跡、と、名、所、に、山、王、を、祀、り、し、社、有、り

貞、雄、補、江、戸、總、康、子、名、所、大、堂、に、貞、觀、二、年、庚、辰、慈、覺、大、師、勧、請、之、中



却前別多そ社同時之起之此年境内寺中一塚出石礪り  
表之親迎の像有り夏に奉造之親迎像一軀真觀元年未二月  
法華十部明王像有り青石上り四尺余巾貳尺計存十三  
寸計一坐之古雅き物之下略之

○ 光徳寺 天台宗 浅草末 同所

開山

貞雄云此光徳寺を隅江ノ砂子江ノ席子ハ浄土宗有り

○ 長泰寺

貞雄云此寺類々見之

○ 瑞松山靈光寺 浄土宗 増上寺末 在所

五木食上人重誉和尚

貞雄神比上人の活方具之神靈解脫物語有り類書之

○ 喜桂山成就寺 天台宗 上野末 同所 中之石

開山法印舜慶 正和三年甲寅起之

○ 寶珠山如意輪寺 同宗 浅草末 在所

開山

太子堂 聖徳太子十六歳の真影存置

○ 隆江山長健寺 浄土宗 牛込光照寺末 在所

開山周蒼上人 中興天叟和尚

○ 一道寺 長勝寺 天台 成祐寺末 在所



開山

○寶英山 清雄寺

日蓮宗

妙蓮寺末

在所中仰

開山

○真源山 松嶺寺

禪宗

多福寺末

在所

開山

○清雲山 即現寺

三宗

妙心寺末

在所末

開山

柳島 押上

往古此山柳多き故 柳まきまき水母寺の柳此所より拖りて

○意富比神社

押上 道旁

吉川源十郎殿屋敷内

延喜式神名帳下総國葛飾郡 有る意富比神社是也 今得り

て是を夕日神社と云ふ 吉川氏の元祖惟足翁を萩原家の神道

を付人吉田家之仕(其後望東本)神學を以て家を毀し此地を

持統よりとせ

○守山本佛寺

日蓮宗

身延末

柳島

横川端  
出村内

宗壽大明神

弘法大師入唐の時所刻

子授鬼子母神



畧縁起云々当寺の授鬼子母神川延室五丁巳年四月八日の綱の三  
岐川より上りてなる傍に武州下谷池上端横田七郎が廟ありし  
信心の依りし海川本お氏伊を去りて若の女と嫁り男ありて生  
まるとも天死せし即ち此事を歎き對ひて鬼の女神  
曰ふも本お氏と云ふを歎きわらわりの海川に出て水垢龍成る  
此の傍より汲上げ鴛鴦を七郎に授け程々妻女懐妊し  
男子を生れ依りて子夜鬼の女神も奉り延室六戊午年當寺に  
納め奉りし

○春陽山永隆寺 同宗 妙福寺末 同宗 本佛寺  
開山

○平河山法恩寺

同宗 本開寺末

同所

開山 日住上人

美東古戦録、平河山法恩寺、康資父大和守資高先考資原  
入道法恩并十三圓忌の為日住上人を開祖として大永四年申年迄之  
一側、三千番神の御堂を建てし

南河本誌、加藤敬豊の兩の屋より移引し云々當寺の本住院として  
太田大和守資高七父六代を三つ資原法恩并日恩の菩提の爲に  
武州三田村の内に此寺を寺附を其時改し法恩寺と号し此寺元平川、  
有り平河より谷中へ移り元福の寺に之を所に移りし

首尾云此法恩寺谷中へ有りし所の旧地、長次の高平、伊豆守殿屋々



内北の方、法恩寺田地の上り地とあり評豆守殿へ添地とあり

寺中 式指軒

- 一理院 壽遠院 大嚴院 寬隆院 正運院
- 四理院 聖静院 千林院 吉祥坊 本成坊
- 千泉院 教戒院 慈運坊 大通坊 奉庸坊
- 覺來院 常唱院 善行坊 持經坊 如象坊

○常在山靈山寺二尊放院 淨土宗 十八檀林内 回所押上

并心念蓮社專答久大起和尚

△本尊 阿弥陀 慈覺大師作 智恩院御門主尊堂法親王御  
持佛人尊空法親王 五本松御坐り了故御影元、御廟を境内に

観音寺 名佛堂

当寺狂古一湯島事邊攻上り了明曆の以右浅井・移了此堂於寺境内  
安養寺此旧跡之元禄元年春此地也移了江戶町也

塔以徳寿院 聖性院 竜興院 良徳院 西接院

貞雄云 狂古十八檀林七ヶ寺關て十七ヶ寺指一を御吟早の上  
此灵心寺を七律付 享三年丙寅三月廿日御日記に 淨土宗十八檀林  
七ヶ寺關古し御改の上寺日浅草靈心寺旦林に 仰付りしと云  
其時の任職ハ光蓮社明登遊宮廊栄和尚之依り是を中再牙祝  
りハ再板江ノ袖子此上人二字の英傑行徳世と云所を著  
毛所ハ狂生要集 指鹿抄 卷二世一行り



○妙栄山 本法寺 日蓮宗 本國寺末 同所押上  
山北坂

寺中 法雲院 本坊院 玄授坊 十乘坊 真如房 住持坊

○寶聚山 大法寺 日宗 法恩寺末 同所横川端

同山大権院 日巧上人 中身 日陽上人 寺中 玄照坊 正光坊

三十番碑

縁起云 柳堂六人皇百五代後柏原院大承六年 草創平河山方也  
大権院日巧上人七年の御廊内平川の造立大承院の宿意、廣布石  
の事教ふ此妙石元来十乘石より十乘家代々宝石也同基  
日巧上人十乘氏 亀井戸の産也往古亀井戸也、吾妻海道也日蓮

上人房州より鎌倉御通の御此十乘石へ追入醍醐の妙名を事終ひ

廣直流布の教と立ふ別廣布石より又久十乘氏尊致す

然るに日巧六歳の時疱瘡を既死を父母悲へ多し了所一人忽ち

現<sup>世</sup>に<sup>世</sup>は是世若神もくも良薬をよむと見て學堂ぬ亡子思ふ

猶生れ是廣布石并、各人大権現の利益をもく一子成出家を

是則日巧有り壯年精舎を造立後谷中、轉地中又元祿年中

今の本所、移し廣布石の本寺に字置れ日巧上人三十番神成彫刻を

今、夢想疱瘡の守を出あり

○天羅山 真盛寺 天台宗律 上野末 同所押上

真盛上人の末流也



○寶松山 全相寺性中道院 同宗 東光院末 同所

○朝尊法印 三十三所觀音寺置聖德太子御作三十三

○長慶山 春慶寺 日蓮宗 身延末 同所

○真如院 日理上人 元和元年教之 三七年八月廿日化

○壽桂山 永泉寺 延命院 天台宗 成就寺末 同所

○開山 慶長三年教之

○弘誓山 德正寺 同宗 法華末 台所

○開山 中興存慶 寛文六年九月十日化

○檀土山 常照寺 昌柳院 同宗 東光院末 同所

○開山 齋覺 慶長十四年十月四日化

○長行山 大雲寺 般若院 淨土宗 知恩院末 台所

○開山 梵譽久 自存和尙 寺中 栄想院 量光院

○當寺 髮毛 昌文茶屋了

○天松山 最放寺 慧到院 日蓮宗 身延末 台所

○開山 仙能院 日宗上人 書手中起立 七面明神 勧請

○直雄神 再板江戸妙子云日蓮上人等蒙古退治の旗曼荼羅

○有 毎年七月虫干の時諸人拜をゆべらと云

○妙見山 法性寺 玄和院 同宗 真間山末 十間川

○開山 日蓮上人

○妙見寺 妙見松 元和の比より成の時此松を鏡松と名付せ玉



此地見降臨す、母見松と星下り松と云ふ一千年松と云ふ  
此松千年に乃子古松と云ふ

○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社  
○天満天満神社

### 龜戸

此地名あり、亀戸井、19の故、其名附了始は夫、此疑ふ、亀戸井  
有故あり

### ○天満天神社

別号 菅少徳都信隆

当社略記云正保三年丙辰筑紫太宰府社職菅原善伴、苗裔大身  
居信託國夜の夢あり

十立、栄ふ、梅の、名松、一、

系世、句、高、早、府、有、早、の、此、梅、を、新、其、係、を、取、り、  
千、年、地、下、り、寛、文、享、年、台、命、有、り、所、方、一、里、の、地、を、新、し、



けり希し時の奉り、徳山氏山崎氏の許し、同日壬寅年社地を以て同三  
祭年、神殿新宮、官殿より橋心の池、宇府に遷す。此年八月、孝禮  
神輿の儀式見、又宇府の例式、則ち本地を巡り、同日壬寅年、夏信  
祐、上京七月十八日、新院上皇、案内御簾止く縁記を讀、殿感有る官廿  
出羽弓、勅し、御衣を下し、祭、同日廿五日、後水尾法皇より、尊皇の震華  
をよみし之

別宮始祀信祐二世信政三世信隆三子也、按江戸妙子、定瓜三丙寅、鎮守  
の由書けり、誤り  
当社宝物、管相公太刀、天國宝劍、其外色々有り

△藤 御宇、淡の池、上十餘丈、及ぶ当社、本有りと、江戸妙子、記す

大宰府の傳は、是と同く、由り、人の記也

△妙美神社、上河妙美山と稱す、管公、河法師、法性坊、尊意所居

梨の果を祭りし、社、桑路記より、天慶二年二月廿四日、天台寺主

大僧都、尊意、平年七十一、洛北、恩長、丹生、真人、左身人也、好し、江戸

妙子、春秋七十四、と、寂し、ま、張也

萩原雜記、云、或説、妙子の社、田事池、出、祭神、白雲、分、家、又、

故、妙子を白香山と号し、を、か、え、ん、と

△花園社、本社の内、河、管公の北の方、常、管公の御子、廿一方を合殿

ニ、み、ま、り、萩原雜記、云、

貞雄、神別、信隆の方、灵玉、河、大、雁の玉子、程、有、二、城、双、石、定、時



とて事なきに又輕き事なりと云ふも亦た然らざるべし

是を以て諸病を加持すといふは忽愈希望の妙也去る由記

相良相根心の精煉足柄郡宮内卿の百姫中幸三と云ふ者なり天位

正直と云ふ者神を信仰し父母を孝養す母老病を敬養す

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに

三月四日公時山の法麻大烟次と云ふ山に六年程たの山のついでに



○梅屋敷

天神より三町余東

清香菴

臥黄梅と稱し其元社の伏れに於て十余丈即ち近世雅人の玉作甚多

首雄補此臥龍梅の下に玉満宮の神社あり神像は此木の下より

殖せしと江戸惣席子名所大をいまり又此梅は吉原の大夫高

尾の鉢植を臥黄梅の名に水戸黄門光國卿の名附らんと再

板江戸惣席子事り

○亀の井

此井の中はまき有り村老の記也

○藤の井

江戸惣席子江戸席のみよりいし亀井戸天神の近所農家の裏にありむの  
し藤の木を坑倒し今も其跡崩きて井とありと記す

此の二年に農家の裏に梅の木ありは梅を植うといふ村老の記也

有と記す此井を名ぬりし知れず梅屋敷の藪の井に井に河をた池に河を

二方七尺の深にたけあり水清なり早敷といふ事あり也り善く藤

の根をみたり其事記すまの藤梅といふ事ありは所をの江戸惣席子

記すは池にまきと年々江戸惣席子の記すありぬり

○千葉石

江戸席子と豊戸天神をくぐり過て千葉介の居住の所也といふ石は具形微

也也月星造に見ゆると江戸惣席子大法寺の廣布石の事あり

記すは石あり

○神明社



江戸砂子云梅屋敷海九郎右三つとも農家の屋敷大榎何里民といふ  
浅草濱成市成の船を繋ぎ木と云はくともいふともいふ此木  
可なり此の神の宮を祭ると云ふ

○香取社

鹿戸 神主 香取越後守

祭神一宮記曰新羅実智<sup>尊</sup>孫育主命之神社所崇曰神代  
曰天神遺經經津主神武甕槌神使平足芦原中国是時育  
主神号齊之大入此神今在東國揖取之地也云  
当社則此神を祭る所と鎮中の年代云々

○同社

小村井村

○水神社

六所跡の南松四五本有社あり 宝蓮寺持

○元天神

同所 鹿戸天神に鎮せし所

○小島橋

押上

○境橋

小村井 鹿戸境にあり

○吾妻橋

境橋の下にあり此三橋皆十間川に渡りし

○吾妻大権現社

吾妻森 鹿戸村 宝蓮寺末

略縁起云御宇社人皇七十二代 景行天皇皇子日本武尊の母橘姫命の旧跡  
也此橘姫人皇七代 孝灵天皇御宇物部連等々迎大昔宿禰の孫穗  
積忍公宿禰の女也于時景行四十年庚戌東夷共謀殺しけり日本武  
尊を大將軍に 吉備武甕大伴武日連杯を以て是を討し是月八月  
尊相摸国より上総国へ行きたりし時海中に暴風忽起りて



御坂澤場し渡りていづれ仍橋姫尊啓して曰是ハ必海神ノ宮ナリ  
ん我身を以て尊の御命に代り奉養人と云ふは亦く浪百に飛ぶ逆巻  
氷の泡と成るに既し風止波静に成て御船岸につく故に人名けし  
其處の海上を馳水と云ふより尊蝦夷を平け武尊上野を巡り西の方  
碓日の方より東南を望み橋姫と志すに嗚呼吾妻戀と宣ひ  
より東國の惣名となりぬ橋姫命ハ水はより高踞りゆかに海は  
ゆかり葉の鏡海中に沈み出たり命日狐神に伝ひ取得再び穂積の家  
に傳ふに故人は其代に嫁しつて而も穂積臣の末葉 鏡本遠山  
井山の三宮橋姫の御跡を尋ひ奉りて正治二年甲午八月十五日おゆす  
の鏡を以て神体にして行基以上面觀音故に本地とゆへ今ハ此吾妻  
舊跡を移し則吾妻大権現と勸請り則白狐神を新羅權前大明神と

崇光の末社と成此森をりて浮浪の森とて其後兼久の比北  
条春時管東管北の刻 太田何果西島西内領地なきを鏡本集人  
遠山兼甘井出大塔を太田へ是を移す春時人許して社頭建立す  
中絶して説の宮社とて今此君万世の國民此社に請ひぬれぬの  
原に成れりといふゆへに  
江戸ゆかりの宮社に石の宮殿也少くやあり所は當所は橋姫の御  
廟といふに鎮座は景行天皇七十二年乙卯九月廿二日及ぶ云はる東  
府第一の古跡也上古のより里流のみと其印計りありて天女比叡  
山をり鏡本其人 井出大塔杯云人 再無き



海江戸砂子の祝縁起とも相違あり縁起は後世に記せし物其  
訃しふたきりしゆゑに社傳をまじりて撰ぶるは後人能面説を先  
考し其據の違ふは祝君ゆかり

△神木 連理楠大本也一本も廿本男本有

貞雄補社傳に御神木相生楠縁起に御当社御神木楠木昔時  
日本武尊東夷征伐の時相摸國に遊りて上総國に到ると  
御船に召まらるる海中に暴風ありて船を危りしに御船  
楫姫命海神の心を知り御身を海底に沈めりて久忍海上穩かに  
ありぬ然るに御船を看し一方し見ゆと尊皇怒りて御船を  
不思候の西に當り忽ち一島の現れり則ち御船を波の浮洲に

つりやせし島ののぼりせりて四方を御覽し吾妻事と宣ひて俄に  
在凡吹来り楫姫命の御喪海上にうつむ磯也したるを尊皇  
ウ尊皇大に喜ませり群臣亦楫姫の御喪を此浮洲に納め  
檀を築き瑞籬を造り御廟と名けり此時則ち浮洲吾妻大楫姫と崇  
め奉り海上に船中の守屋神也と尊皇神矣、御食ふとて楫の  
御箸を以て来代天下平あゆむ此箸二本共栄ふ可くと宣ひて御宇  
自御廟の東の方しをせりて此御箸忽根皮をとり枝葉を取り  
相せの男本廿本と冊ありまゝ今も在りて楫の色を以て来代を  
赤色とて最なるにせりて御書之然るに主御民家悉く養殖せり  
死す者多かりし時の宮僧此神木の葉をとりて忍病者を掃ふ



て平癒せし故諸人等て貴に敬ひて今此神樹の葉を以て護符と信心  
に戴き服せしむる難病も亦奇瑞なりと云事ゆ一凡二十年有餘年  
の星をたか移りては神樹の心をなすも仰貴べし其殿に世昔  
知らば亦まは行諸人の助とも仰之と略し記す

○西歸山常東光寺 曹洞宗 橋場終泉寺 魚戸

昇基行基菩薩 本寺の自休 二河津院 二若目

中興勝義最和尚 天文十三年七月十五日化 寺傳云往昔豐島刑部より人娘一人失せむ大慈舟籠野へ来

諸の夢想を得し古郷へ歸り津草川を光明の木を得し阿弥  
陀と侍り行基の彫刻をそと二ヶ所納む是今の二所は陀と

元文元年二千五百年忌を行ふと

△東迦松 本寺の東より中古火災の時本寺の葉を移しよと

△龍燈松 葉の茂り竹の童燈寺成り下り事有り

○慈雲山童眼寺無量院 法皇宗上野末 同所

昇山良日法印 應永十五年寂

元禄二年秋テ秋テ秋テ秋テ 当寺明和の比秋多ク移り旅に遊觀の人秋毎に入つる故秋寺と  
稱し張州大坂の秋寺を撰す 明和七年、任持の義海也

○瑞龜山長壽寺 曹洞宗 西家 江州永源寺末

中興 同誌 仁安三年十月廿六日化 昇山大梅和尚 近前寺殿節翁宗竹大居士 元文十三年三月十三日

○慈雲山光藏寺 曹洞宗

昇山 河南大和尚



○東林山華藏院寶蓮寺

真言宗 寺島蓮花寺末

開山真鎮法印

聖記 嘉元元年 起立

吾妻森別当

中興 証如 近字元年 十一月七日化

古 江戸横山町

本尊 虚空藏 每所証如 江府 三虚空藏内

本尊 虚空藏

所謂三佛、此品川 養和寺白山山下正福寺 当寺也 是皆

本尊より 好む。 乾元二年 改元二年 嘉元元年 九丁三代

後三孝院所宇成し、江戸砂子川

○稲荷山 不動院

真言宗

龜戸普明院末

○福壽山善應寺 普明院

真言宗 宝招寺末 龜戸 天神

開山長賢 大永七年 四月 二日化

△本尊 大日如來 可公 榮証 可基 十重中 大輔 自胤

△慈眼水 名水也 当所 大寺 風景 殊勝 之地

△身代観音を

貞理禪当寺 略縁起 当寺 本尊 聖観音 傳故 大師 御作

往昔 下総 国 足美 庄 隅田川 の 邊 也 廿四 年 于 時 大永 二 年 同 御 三 股

城主 十重 中 務 大 輔 自胤 の 侍 臣 佐 田 善 次 盛 光 後 羅 野 守 侍 有 の

綾 衣 縛 せ ら れ 伏 誅 望 せ 已 刀 杖 を 加 へ 自 刃 せ 折 じ

斬 じ 不 能 衆 人 大 臣 天 皇 左 右 其 故 を 宣 盛 光 曰 臣 罪 方 々

死 地 一 是 如 何 一 編 手 兼 後 心 刺 奉 御 聖 観 世 音

名 字 外 伝 一 仍 自 胤 幸 信 命 一 花 冠 を 弁 是 を 拝 せ

尊 容 の 遍 身 の 血 滴 々 然 漏 出 下 如 一 自 胤 甚 驚 歎 一 人

を 乳 明 一 盛 光 の 危 難 を 逃 せ 如 年 有 自 胤 の 見 女 疾 病 犯 せ 不



有りて医薬青囊を懐いて術丹素を抽いて其の聊を以て  
治討尽し及んで自風波を尋端を召し出候て此尊に懇祈し其後父母  
夢に之を予に紅の蓮華を持りて老翁来りて汝の頂を摩るるとして  
覺て之を以て病苦忍むるは汝の自風雨度の利生に湯作候し  
俄に精舎を海内移し奉り長賢之改導何れに新に甲扉供養あり  
福聚の善慶寺普明院と号し其地は普明院廊と稱し其に隅田川の  
辺に在り而右天文三甲午年疫癘國中に流行して疫人数量を悉く  
盡し其に此觀世音を念ふ奉り病者も卧床を等しむるとして疫疾  
逝く予も各處曾有の事持りて持長賢の弟子長栄睡眠の中  
一老翁の形を拈稱して床に大鳥ありて長栄言く使何言の事と

老翁の曰く予は是れ施無畏大士也衆人の疫疾を治す故に病苦一身を遍りて  
を以て人我法を坐す候し予は救世の加護力と仰ふと宣ふと覺て鶏鳴  
の聲を聞き長栄内陣にて尊者を拜し奉り佛体熱を以て汗を  
流し満上人感涙を催し連夜昼夜不卧し観音法を侍り須臾も疫  
疾退散して老翁の教を踰躍前代未聞として身代観音と尊神奉り  
て其の冥敷不思の毫も揮ひ絶し其後元和六年壬申榮真上人公布  
仍て精舎を龜戸の郷に移し法具運送刻鐘隅田川の流没り  
予の鐘の淵是也吾曲の歌に那が其後榮賢法下法誓の  
時恭に大猷大君が御觀獵の御奉りての来由 台聴に及んで  
当晚入御あり拜礼す 刻度安三年八月廿四日御朱印若干を寄



此のまゝより以來精舎の追光燈... 法燈月を照し赫々...  
佛觀世音の利せ嚴年... 自他の北益廣大なる... 故常誠二度  
芥子微塵の人の種... 此實を免かき無量の福祥を得ん...  
濁世の末世... 豈疑惑のやと云

貞元又云此寺傳... 縁起を以て按ず... 淺草鐘の洲の鐘... 其の  
院の鐘多し... 明白也然り... 江大砂子、橋法法源寺の鐘... 其の  
謠り... 善明院... 鐘の鉄... 是は... 其の...  
傳説の形... 鐘の洲の... 鐘の洲の... 鐘の洲の...

武州葛飾郡龜戸御福聚山善應寺音門院銅鐘銘并序  
蓋聞忍土之佛事音聲以為最衆音之中鐘也以為先音才發

則塵刹之聖賢條忽赴集... 劍輪鑊湯之器立消焰口... 鐵咽之教... 戴角  
彼毛之屬應時解脫... 之隱之鼓... 徹無所不至... 其有聰者... 靡不警  
悟... 其心有登其身... 惡以斷... 善以修... 而修... 通耳... 良惟... 雖似... 拙自... 帝之  
精就... 亮... 氏... 之... 予... 而... 實... 顯... 法... 性... 之... 妙... 相... 契... 法... 爾... 之... 四... 音... 者... 也... 宜... 矣... 神... 用  
無方... 豈得... 而... 言... 哉... 若夫... 蓋... 誦... 夜... 禪... 仰... 粥... 午... 飯... 不... 越... 其... 期... 者... 偏... 賴  
蒲宇之功... 九僧... 伽... 藍... 處... 不可... 無... 此... 若... 是以... 身... 毒... 支... 那... 而... 至... 本... 邦... 所有  
名山勝迹... 無不有鐘... 所以其不可闕之者... 亦為大焉... 粵有精舍... 榜曰善  
所... 推... 其... 播... 擲... 大... 永... 年... 間... 予... 重... 平... 尼... 自... 胤... 割... 掘... 慈... 洲... 之... 日... 傾... 信... 教... 奉...  
大慈像... 乃... 搗... 梵... 宇... 之... 三... 勝... 域... 中... 各... 置... 伎... 表... 其... 像... 時... 有... 長... 賢... 之... 行... 潔... 德...  
芳... 為... 密... 林... 之... 榮... 平... 君... 之... 師... 主... 之... 以... 為... 始... 祖... 龍... 嚴... 殿... 塔... 鬱... 山... 律... 鐘... 磬...



之響互和五部灌頂之流無絕矣覺解出雖然遭厄干戈載塗屢罹罹祝  
融之殃或輿或廢難可備紀訖斯際乎鉅鐘沒隔田川而失矣其慶九日  
鐘潭至今稱李元和二年任持沙門榮賢有博洽之譽為 敵祖見禮遇因賜腹田若干  
慶安中任持沙門榮賢有博洽之譽為 敵祖見禮遇因賜腹田若干  
永元香燭前任持法印事名紹興憂鯨鐘之缺特圖之緇素遍有  
道人取智者見羨勇為憤然楚塔下最緣訖還不暉風雨之與矣莫  
振錫勸獎六年于茲今歲乙卯春安緣方具運命治人拔差溪之寶鍊  
昆吾之珍虞倕施巧備器之既現任榮香僧都使予為之執予素  
無陋不閑文辭而聞此勝事不任隨真之至遂綴鄙式勒貞金錄曰  
大矣捷植 為法器先 既成且美 築虛 為 匪石匪楨

原薄兼全 不詐不撻 後亦無偏

休哉法器 梵音鏗鉤 霜月天夜 獅吼龍鳴 通霄徹壤

震動幽明 上延皇祚 下道蒼生

奇哉妙響 一經耳根 警覺長夢 彌覺除重昏長夢 悉證種智

均入普門 芥石有竭 利濟無根

享保二十年太歲次乙卯三月二十八日

東都北郊靈雲輪下奉佛性戒苾芻芻光天謹識

權大僧都 法印榮香 教王 見外永智

鑄物師 西村和泉守 藤原政時 作

貞觀又云斯普門皮御先院地成乙卯三月二十八日江戶佛子江戶麻乙卯三月二十八日



寺々

○龜命山光明寺遍照院 天台宗 浅草寺末 龜戸  
弘治元年建立  
并山傳榮法印 并山慈宏

○香林山金藏院 天台宗 浅草寺末 同所

并財天 弘法大師作 并山近海

○教智山淨心寺宝燈院 浄土宗 浅草寺末 同所  
并山鑑蓮社吟卷 至山不通和尚

并山心卷上人 大慈和尚 元和元年建立

○龜命山慈光院 禪宗 浅草寺末 同所

并山南列巖大禪師 萬西三印清重四代の孫 正二年神萬西出雲守建立也

△本尊大日如來 行是次 東方畑の中へ出現

△鎮守天照太神 兩室童子 春日作 并天智大師作

○施無畏山善童寺 益眼院 天台宗 全純心末 同所  
壬午十六年建立  
并山 本字觀音 東方丸所二十九番目

○明王山東樂寺 真言宗 寺島蓮花寺末 同所

并山玄學 享祿四年の建立と云傳ふ

○熊野山寶生寺 日宗 蓮花寺末 同所  
慶長元年建立

并山源智 元鐘

○秀明院 同宗 同所

慶長十年建立

并山源智

○藥王山龍光寺 同宗 寺島蓮花寺末 同所



甲山元榮 弘治三年歿 古江戶横山所

○東向山延命寺 赤坂威徳寺末

甲山

○顯相山自性院 天台宗 東光院末 聖川五の橋可

中興自性院大僧都 聖者法印 毎任 誠阿大和尚 竹の五寺と名

△稻荷社

当寺の境内に徳中坊の稲荷の別當職也然るに昔年可の稲荷  
彼狂言大夫元市村作の丞若年とし呼えたりしが幼穉より佛事をして自  
性院の弟子となり歿、天台学を承け十八九歳の比に狂言と上手即ちその  
ついで自性院へ入道して類族の輩れし兩度まで出家得度の程に於て

けしと一時早く妻を去るは自ら思ひ止まらざりや  
是の色に諫め共不中り共廿三歳の比亦死にけし斯の如く佛業に入り也  
と家職しき法を承け師智菊屋何某の子を貰ひ養ふとて太夫元を譲り  
隠居行くとて死にけしを記談とをばす是誰か之や入成りと挨拶  
もつとて向も急隠居とす御縁を求て日光御門王の御剃刀をいささ得  
度をもて京都慶山に勤學して返り出世し終に法印権大僧都の  
官に昇り叡山の宥坊守任院の任職もなすなり後年、及て江戸に  
於て先づ自性院を興せ一度故郷に返り養育侍たりと御つぎへ出  
て自御許容有し隠居と存付り故郷に江戸下り自性院に入て堂社悉く再建  
し或は百姓地を買収の寺領の如く附屬し終に先師入寂も以後自性院後任



とあるより時日光御所主の意御意叶の上野へも来た事見え新  
官の御師範として仰けしに依り依の人多く寺中にて減罪といふも  
行いけりとも御つまの御威光に誰咎む人もなく終に寺と成りぬ因て此  
任師を以て當寺の可山と稱し今以此本像をある尊敬を前代の名僧より  
寂滅右遺骸に當寺本堂の下に葬りし今其石塚本堂の内右任師本像の  
下の袋戸の内有り其側其表子市村宇をつぶ富士見西の本像より  
此故、此自性院を作りて至寺と云ふに當寺の寛文八年起五即

### 小梅

往古とまづして牛島と云ふ梅と云ふの云々此の比より小梅と  
云ふ一三圍稻荷の社傳り

○三圍稻荷社 子田中稻荷凡別々 元弘末 三圍山真珠院延命寺 小梅  
踏縁起に不當社往古弘法大師勸請して開基以来九百余歳也又  
和年中近頃の風并寺住侶源慶僧都再興之傳教大師之彫刻と云ふ  
地元の元慶持念の事年久し有る夜其夢を得て東に下向し  
隅田川に牛島と云ふ林樹の中に破壊した社有り鎌を下り来り老人の言即ち  
社をこゝろぬをいふ社と云ふ弘法大師自ら稲荷の神作と彫刻と云ふ  
其時洒水著の中に梅一粒を感得し其梅此島と云ふ此所より梅の事と云ふ



後大洲の此より為来りし社を築ふ時移て一燈かぐりて現にあり侍る  
言終りて去源慶の前物訪、泪を催ふ、梅の本も有り立りし、くゆえ  
此をまは包はるるむ梅の糸木、大、初く、玉の玉垣

子れ異の告有り、翌日衆人を集めて共、社壇を内、一、一、臺を得り、  
是を拜と、神作老翁の傍、白狐の夢、たの御子、宝珠を持ち奉、稻を祈  
い、御子係を得たり時、白狐来り、神体を三度めぐりし、失り、是より三め  
り、稻翁大、神と申付く、り、傍都乃草をい、り、神体地化をた、り  
り、奉り、時、寺社を造覚、精舎を建立して、延命寺と名付け、此外、善所  
并天太子を造立、一、一、一、元慶手、一、煌火起り、神社佛各植、木、り、  
灰、然、り、天、心、手、中、寺、院、を、境、内、社、此、の、南、り、月、て、奉、の、ゆ、建、立、一、一、一、元、慶、長

身中大洪水、一、民、家、過、半、湮、流、も、神、祖、奉、下、民、を、憐、愍、一、淺、草、り、の  
岸、を、堤、と、稱、一、即、此、時、寺、社、改、轉、一、今、の、地、に、移、り、と、云、し

○牛御前社 中島 別宮 中富山明王院最勝寺

貞觀二年庚辰慈覺大師勸請奉神進雄命と云し

神社略記白当社、奉祈、總鎮守王子神を相殿也、土俗傳、曰、此神、  
昔、建、長、の、比、淺、草、り、牛、鬼、出、り、人、民、を、悩、み、是、に、因、て、一、社、の、神、と、祝、り、  
所、の、牛、王、神、と、稱、故、に、所、を、牛、島、と、号、す、と、云、全、謂、く、是、を、説、き、り、當、社、の、  
牛、頭、天、王、を、奉、り、と、一、事、と、云、一、り、

江戸妙子云最勝寺、石塚寺、近年土中より、掘出れ、  
表、祀、也、係、り、



奉造立釈迦像一軀

貞觀十七未天三月日

法華十部明王院

青石大四尺余幅三尺計

厚三寸程 裏し

至て殊勝なり石之安を以て凡そ牛鬼の言説疑ひを以てし  
ふとく源源を好む所と云ふべし

○神明宮 同所 別寺足朝山神宮寺 浄土宗

江戸砂子不熟堂の旧本云牛御前同時代也同寺云浄土宗也  
信所和南武州忍城下行田大中寺に金銅丈六の弥勒造立し其鑄形を  
以て當時の本字を鑄むと日向院の云の如し勸化すも其年有り其印  
半の如し伝てし人の師へ志を継ぎ當寺再葺けしは保十七年秋落成也

○秋葉大権現 兩社 別当千葉山満願寺 請地村

十世代 稀翁

鎮堂の年代不詳 西應手中の草創と云ふに由り

△神水 山の窟より涌出れ諸人の病を治す

○白鬘大明神社 別当 最藏院 大川路寺島村の内

首堆云江戸惣麻子名所大全に云鎮堂の年曆不詳と云ふに任たり

の社と云行ふ当社江戸に在唯此社に在殊勝の宮居成り云

○三圍山真珠院延命寺 天台宗浅草寺末 稀翁別当 中坊村

岸山弘法大師 中興源慶修翁

△瓦不動尊 中の御瓦師 中代彦六作

江戸砂子不此瓦に廿段に名人を瓦を以て佛像を造りしは佛工の所



次より正保四年九月高野山蓮華定院の住職盛立法下所望に  
依て但梨迦羅不動の像を作し法下感心の余り件の旨趣を尋て先六  
とよみ終しが家へ有りて珍とて以者むりし事推の本に敷の地は信じて東都  
瓦師の始中島氏といふ事云々云々

○寶壽山遍照院長命寺 天台宗 上野末 同所

寺傳云寶永の壬子御鷹野の時御不例の事ありし此寺の井の水

より御牛水有りけり御不快せらるる御平愈たりし常泉寺といふ寺ありと  
改め長命寺と云ふ事ありし事云々其井今も寺の前の所

○牛頭山弘福寺 禪宗 黄檗派 同所

牛頭山 和尙

○牛竇山明王院最勝寺 天台宗 上野末

牛竇山 貞觀年中起立

△不動明王 良弁僧正作











